

淡州檢地申付御狀

覺

一 田島上中下九段に可被相定事

一 加子屋敷此度改可被相渡候間數者淡洲之可爲並候事

一 兩郡村分にて檢地に可被取置候事

一 在々庄屋政所誓紙之義前書檢地奉行を調可被申付候筆本者面々被見可被申付事

一 山内彌五太夫佐野傳垂生田市左衛門原九右衛門誓紙之儀是又檢地以前に可被申付候前書は惣並

たるへ候筆本爲奉行被見可被相究候事

右五ヶ條を可被令沙汰候猶口上可申候也

寛永 四

正月廿七日

宗一 (御印)

長坂三郎左衛門とのへ

覺

一 居屋敷之計代 可爲阿波守

上々島之ことく

一 茶 年貢 可爲阿波並

一 入木 可爲阿波並

但長は米之事也

右三色阿波並に可被相定候此外小成物何も帳に被乘間敷候

以上

寛永 四

卯月十二日

(御印)

長坂三郎左衛門とのへ

西條茂右衛門とのへ

林三郎大夫とのへ

堤間兵衛とのへ

牛牧を富岡と改稱申付御狀

(候爵蜂須賀家所藏 御代々様御書寫中抄出)

態申越候仍此制札に判形候て可被越候此旨其元下々へ堅可被申付候寫可置候然其城之義彼其方仕合惡候條牛牧を申替富岡にて候則此札町口に可被立置候自今以後は千秋万歳可目出度候 草々

霜月十八日

細山主水殿

一茂(花押)

九五二

てこ木其他割符申付御状

(侯爵峰須賀家所藏、御代々様御書寫中抄出)

てこ木かしの木つば木

一三 百本 長さ壹丈 ふとさ本廻壹尺五寸六寸七寸

右之分祖谷山城谷人数に應割符にて申付早々爰元相届候様不可有油断候也

三月廿四日

(御印)

井村徳左衛門とのへ

御鉄炮御暇田地被下覺

(侯爵峰須賀家所藏、以奉御家老御四國へ被申出書付中抄出)

覺

海部御鉄炮者之内頭四拾人今度御暇被遣之也彼者共自分に新田於開者壹人付三反宛可被下之條郡中にて面々勝手次第開候様可申附旨數川源太兵衛馬詰半兵衛爲御使依被仰出如此候者也

慶安四年二月九日

賀島主水

佐野伊兵衛殿
稻田次郎五郎殿

三名道筋覺

一土州豊長口本道筋從下名境目迄半路

(侯爵峰須賀家所藏、御國法式之冊中抄錄)
大黒與三左衛門

一土州本道筋上名より境目迄壹里

藤川助兵衛

一土州立川口道筋上名より境目迄廿丁程

同 人

伊與道筋上名より境目迄貳里

一土州奥野太田道筋上名より境目迄廿四五丁程

同 人

一土州道筋西字名より境目迄三里余

伊與道筋西字名より境目迄二里

西字權兵衛

一大西池田より下名迄道筋九里

一同所より上名まで道筋八里半

一同所より西字名迄道筋六里半

以上

明曆三年三月十五日

九五四

新開田地に付御觸寫

(名四郡林省吾氏所藏
諸法度掟書中抄出)

一御國中村々新開田地に可成處於有之は其村之者目路見御奉行生田市左衛門木村兵左衛門方へ急
度可相斷若不申來他郷方望之者候は、自今以後其村之者には不被仰付望之方へ可被下候餘此段
郡中へ可被申觸候 以上

寛文十一年正月廿三日

賀島主水

前田伊兵衛殿

内海彌五太夫殿

長坂四郎太夫殿

右之通先年申付候猶又御林並置野殿床たりと云とも新開に望申者於有之は是亦生田市左衛門木村
兵左衛門方へ可申來旨市中在々へ急度可申觸候 以上

延寶七年十一月十八日

林彌五右衛門殿

安富平兵衛殿

里村新助殿

山岡平右衛門殿

拜地田島埋立に付申付書寫

(名四郡林省吾氏所藏
諸法度掟書中抄出)

一諸士拜知田島埋上節大川筋は不及言少々溝川隔候而も被召上來候雖然御壁書に御國中洪水之刻
川成候田島之儀は百姓等及申分に則檢地帳を以其地相改當時川相付方可爲理運旨被仰出上は自
今以後從難川相隔候其給人は可被下候餘此旨可被得其意候仍而如件

天和三年七月廿一日

賀島主水

御藏奉行當所

椿地村新田指出覺書

(那賀郡
三間知賀氏所藏)

那賀郡椿地村新田指出之覺

大たう

一壹ヶ所三四反程盤田

入江すな濱

九五五

此拵土手堤長さ七拾間禰置三間半堤裏捨石此石わり石にて石取場海上之間貳拾丁計御座候右
者水戸

舟ばた

一壹ヶ所貳三反程鹽田 入江すな濱

此拵土手堤長さ六拾間禰置三間堤裏捨石同水戸

出見

一壹ヶ所四五反程鹽田 入江すな濱

此拵土手堤長さ五拾五間禰置四間堤裏捨石此石わり石にて石取場海上之間貳拾丁計御座候同
水戸

右者新田に可成所又者田島に不成野地に而も吟味書付指上可申旨被爲仰出候に付相改申候右之用
水其小谷之古田餘り水にて少々義に御座候得共外々用水懸取可申様も無御座得共此分新田に相望
申候間歟下五ヶ年被下候は私手普請に仕度奉存候右之外田島に可成野地に而も無御座候若少々
義と奉存隱置重而御開付被爲成候は如何様とも曲事に可被爲仰付候爲後日如件

寛文拾年三月十日

那賀郡椿地村肝煎

左次右衛門 印

園木 丞 右 衛 門 殿

古 尾 幸 太 夫 殿

覺

後戸

一四五反程

入江 濱

南より

一貳三反程

同

此普請土手行百間余根置五間程上置し壹間程高さ八尺程但浪打土手浦石かき井利居えも御座候
右之分歟下五ヶ年被下候は私手普請に仕田地に望紙面を以申上候其後堤相調候は見分之上に
て歟下の程可被下旨被御聞亥子兩年に普請出来仕候子の春椿村へ兵右衛門様御越被遊則御見分
請候丑の年々去年迄五ヶ年分歟下明申候左候得は當年々御年貢成にて御座候得共造用過分入申
候間今三ヶ年歟下被下候は雖有可奉存候 以上

元祿三年午の貳月五日

那賀郡椿地村庄屋

左次衛門

木村兵左衛門様
佐藤四郎右衛門様
後藤金兵衛様
久米長太夫様

永代賣渡申田地書物之事

一畠反合九反貳拾七步

椿村之内動々原分

一高合貳石六斗六升八合

此代米銀五百目

同村之内

一田町合三町七反貳拾壹步

蒲生田村分

一高貳拾六石八斗貳升貳合

此代米六拾石

福井村之内

一田反合八反四畝拾九步

後戸分

高五石八斗七升六合

此代米貳拾石

三口町數合四町八反三畝七步

一高合三拾五石三斗六升六合

代米合八拾石

銀子五百目

右三ヶ所新開先年坂野與一左衛門様御開被成候其節普請入目並御年貢米相滯其上益左衛門様御代に罷成候而も毎年御年貢米滯申候に付御公儀様々色々御催促被爲仰付候得共上納相成方便無御座私共に度々御頼御口入仕銀米共に御手前御拂被成儀罷不申に付右三ヶ所之田地永代に賣相濟候間私共肝煎賣拂候様御頼相成度に肝煎候得共田地土地惡敷其上麥地無御座候故外望申者無之私共可仕様無御座候様に付其趣益右衛門様へ申上候得は左候得は外方便無之間右三ヶ所之田地甚五兵衛様是非御取相成被下候様に益吉様々甚五兵衛様へ御頼被遊夫に付田地永代子々孫々迄迄右之田地御渡被成證文可然旨私共益右衛門様へ被仰付如何御座候則代米代銀札共に甚五兵衛様御家來衆へ請取新御藏御年貢米拂相濟申候尤御代官御裏判を以御證又御究相成筈に御座候得共甚五兵衛様益右衛門様之御儀に御座候故益右衛門様御奥書を以私共加判に而御定相成所少も相違無御座候

御年貢米之義は毎年御定之通甚五兵衛様御家來衆中々私共請取上納仕筈に而御座候爲後日如件

貞享三年とら極月廿五日

- 椿 村 長 兵 衛
- 同村五人組 傳 七 郎
- 同 五 兵 衛
- 同 久 兵 衛
- 同 菊 左 衛 門
- 同 甚 吉 郎
- 同 村年寄 源 左 衛 門
- 福井 村 佐 次 右 衛 門
- 同村五人組 傳 九 郎
- 同 治 右 衛 門
- 同 善 右 衛 門

森 甚五兵衛様御内

榎 原 便 左 衛 門 殿

橋 詰 友 左 衛 門 殿
小 澤 菅 左 衛 門 殿

右者拙者近年御年貢米先年普請入目共に滞にて候に付度々借用いたし候所に返辨仕方便無之故先に肝煎を以右三ヶ所田地代米八拾石銀札五百目に永代子々孫々に至迄甚五郎殿へ賣渡候所少も相違無御座候爲後日拙者與書を以相定所實正如件

とらの極月廿五日

椿 泊 浦

坂 野 益 右 衛 門

森 甚五兵衛殿内

榎 原 便 左 衛 門 殿
橋 詰 友 左 衛 門 殿
小 澤 菅 左 衛 門 殿

溜床開尻願上覺

乍 恐 奉 願 覺

(板野次郎氏所藏)

一長坂禎之助様御拜知板野郡大坂村徳王寺谷本地四反六畝廿七步高四石四升貳合之内田三反貳畝

廿四步此高三石四升四合貳勺之處右は私共名田先年吹田村用水溜床に被爲仰付候得共水持惡敷其上出水之砌度々堤切れ申處寛保元年酉の年堤切れ申候而其後御捨置被爲候出水之自分石砂溜床へ押入罷有居申候然所私共田地少く迷惑奉仕地筋之義に御座候乍恐御慈悲之上御見分被爲仰付相應之緻下被爲下置開さ戻り被爲仰付被下候は難有可奉存候 已上

板野郡大坂村先規奉公人

寛延四年十月十八日

- 三木丹治兵衛
- 同 三木宇兵衛
- 同 三木爲左衛門
- 百姓 金治兵衛
- 同 繁六
- 同 長兵衛
- 同 壽兵衛
- 同 喜兵衛

御藏所様

右奉願通開さ戻り被爲仰付被下候は私共迄難有可奉存候間奥書仕指上申候 以上

同郡大坂村庄屋

四郎左衛門

同村五人組 快次郎

同 貞右衛門

同 宅兵衛

同 吉左衛門

同 又兵衛

御藏所様

右之通大坂村徳王寺谷築溜床彼村地主共此度開地に奉願に付於吹田村に故障有無相糺可申上旨被爲仰付候に付百姓共手前相鍛候處右築溜之義風雨出水之砌度々堤切れ其上水持惡敷御座候に付近年は御普請御願も不申上打捨御座候右之仕合に御座候に付開地に被仰付候而も障無御座旨百姓共申出候に付右之段奥書を以申上候 以上

未の十月十八日

- 吹田村庄屋 次郎兵衛
- 同村五人組 彦左衛門

未十月廿三日

| | |
|---|------|
| 同 | 金左衛門 |
| 同 | 倉兵衛 |
| 同 | 利八郎 |
| 同 | 直左衛門 |

御藏所様

(麻植郡 瀬詰村 役場所蔵)

島地下渡覺書

小塚にて本地七反百五拾歩高三石三斗七升五合之株四反高壹石八斗之内

名 負 又 四 郎

一下島壹反壹畝 高四斗九升五合

右は於麻植郡瀬詰村御地知頭人百姓八郎右衛門傳右衛門扣地に候處寛文五年十二月二十三日右
 兩人方々三間屋覺右衛門方へ永代賣地分四反高壹石八斗之内字反高右之通相改指上申處相違無
 御座候 以上

元文四未年十二月二日

瀬詰村庄屋 喜三兵衛 印

同村御取立人 官右衛門 印

坪田庄兵衛様御内

厚美 惠右衛門殿

右島地壹反壹畝高四斗九升五合之所我等許知麻植郡瀬詰村百姓傳右衛門八郎右衛門扣地に候處寛
 文五年右兩人方々三間屋覺右衛門方へ永代証文を以賣置候處元録拾壹年已來右覺右衛門方々瀬詰
 村兵右衛門夫右衛門平次郎方へ譲り請候由其上年來米麥定也由に而類地再也年貢也申付をも請不
 申所務方指支候に付止々に証文指出させ遣扱見候處根元覺右衛門當也永代買に候之河野三郎右衛
 門同六郎大夫方々右三人方へ當違内証譲り証文不本也裏判相見へ候に付彼是之趣遣詮議候處夫々
 之義少も申開無之迷惑仕島地指上申度旨庄屋喜三兵衛奥書を以願出候に付料之義は指免右島地証
 文とも不殘取上散田に相成候處其方義冥加米指出四反之内右畝高之通名島に相望候に付望之通水
 届也向後其方名島に居遣候條諸年貢等所再にも相動可申候仍而下札如件

元文四未年十二月二日

坪田庄兵衛 印

瀬詰村

與七郎方へ

散田に付御記録遠書寫

散田之事

九六六
(名東郡 富永久基氏所藏)

一 百姓死絶子孫無之段所役人共連判を以注進申出候上重々相糺子孫無之段相違無之候は右田地所惣作に申付請書等申付其上に而田地畝高改帳面差出筈尙又詮義之上相改御仕置所へ相伺御下知之上望人又は入札を以相片着筈

一 右散田名筋類親其外由緒等申立冥加銀差上名田に被下度段於願には猶又重々冥加米銀相鍛申上御仕置所へ相伺御下知之上名田に居遣候

一 賣地散田之義は買置候者相望歟又は由緒を以外人共冥加銀高直之方へ相伺片付申筈尤望人無之候へは米銀付散田之義故御年貢差支無之に付其儘差置

一 散田之義兄弟近親之義に候共一旦棟を分候上は類親之通冥加銀差上相伺御下知之上名田に居遣一願人無之散田之義は相伺入札を以相片着筈尤於御藏所御奉行御代官申談双方手代立合札開之上落札相究御藏奉行申談入札入御被見御下知之上落札人々名田に居遣尤相觸候へ共望人無之候へは右之趣御仕置處へ申上右散田身牀帳面を以御藏處へ差戻尤來る何つか御年貢引申繼候へば引證文差越

右夫々爰元御代官御記録御出來書付相達

以上

寶曆十二年七月廿五日

- | | |
|---------|----------|
| 中尾 勝 兵衛 | 津田四郎左衛門様 |
| 樋口才左衛門 | 黒田與次大夫様 |
| 笹田助左衛門 | 川田一左衛門様 |
| 猪子甫左衛門 | |
| 小野彌左衛門 | |
| 小野泰右衛門 | |
| 長坂波門 | |
| 吉川徳太郎 | |

散田差遣覺書

(麻植郡 山瀬村役場所藏)

道さこ西又十郎名負

一田四拾步高七升貳合

右者其村彦次郎扣地に有之候所彦次郎義死絶散田に相成候に付其方へ永代名田に指遣候所如件

安永七年戌二月十四日

武川 治兵衛 印

麻植郡瀬詰村

嘉次郎方へ

被開に付申達覺

(那賀郡森園平氏所藏 諸願書中抄出)

此御兩國村々給知被開之儀其筋々へ不申出給人於手元開立候分は被床被召上御作法に候所近年は村々百姓共之内にも不辨之者有之給人方へ不申出内々開地仕候者有之候様相聞候趣右被床夫々被召上に而も可有之候得共百姓共迷惑成可申哉依之是迄開立候分は別儀を以來七月晦日迄に有來候開地願出候得は檢地被仰付右切月過候而も不願分は御作法之通被床被召上旨夫々給人方へ申渡候様被仰付において御究にも相成可申旨之通承届候條給人方へ夫々被申聞義可有手配由御藏奉行へ申達事

六月八日

右之通御當職御下知之趣御藏奉行中へ申來候條面々組村右に相當拜領被有之者共へ急々可相觸候以上

六月十九日

寛政四子年也

福岡今左衛門

那賀郡與頭庄屋中

右御觸之義森直次兵衛を指越留置候

六月廿七日

梯彌惣太様御拜領被御座候得共開地いたし無之候

(名西郡 久米儀平太氏所藏)

名 田 下 札

下札之事

字□同所

九郎次郎

一下田八畝八步

高七斗四升四合

五郎右衛門

字□同所

一中田拾歩

高五升

溝ふち同所

高五斗八升八合九勺

一中下畠九畝

池淵同所

六

一中畠壹反三畝拾五歩

高壹石一斗四升六合

田畠合三反壹畝三歩

高合貳石五斗貳升六合三勺

外に出無高貳升六合貳勺六才

貳口合貳石五斗四升七合三勺六才

右は死絶散田之處依頼に向後子々孫々迄其方名田指遺處實正如件

津田角兵衛内

文化七年三月

出口茂三兵衛印

名西郡城之内村

金左衛門殿

右之通令承知候

津田角兵衛印

散田下札覺書

覺

(名西郡久米儀平太氏所藏)

一上畠壹畝拾八歩三厘

名負久右衛門

高壹斗七升六合九勺五才

右は其村拜知地之内行々長次郎死絶散田名長次郎且寺淨土寺に爲佛事下札被仰付候様取立村役人共願出候に付此度下札指遺候處如件

寺西道太郎印

嘉永七寅年十月

名西郡城之内村

淨土寺方印

空地差遣方諸窺

文政四巳年空地諸窺扣に有之

空地之儀寶永七年御藏所へ御付被成候已來無床銀先願之者へ被下又は床銀之召上時々御斟酌有之候所近年心得向區相見え々願出候依之左書之通相心得小百姓共至迄不洩様可觸知事

一空地有之被下度願出候おいては以後之儀は願之前後不拘遂吟味候上其趣次第冥加銀召上可差遣

事

一先年田島川成等相成夫々令貧窮調地も不仕有之者之義遂吟味是又其趣次第多少可指遣事

但不甲斐性にて貧窮之者は勿論自然之義たり共冥加銀は召上候得共本文之通之者は冥加銀不

召上候事

一近年空地之儀は居村之者へ可遣筈之様相心得他村之者は被下間敷杯と申出候者も相見甚心得違之事に候前々々村々之義は町數定余地之事に候得は何れへ遣候逆も申分無之候餘右様相心得可申候並空地願之儀は是迄之通役人之奥書に不相及指出可申候是等之趣兼而能々相辨候様可觸知事

右之趣其方共組下村に急々相觸承知之趣請書取集可指出候

已上

文政八酉年也

六月二十日

御藏所

諸郡與頭庄屋へ仕出

新田築立下札

（板野郡英夫氏所藏）

覺

一町數貳百町程

南は鈴江川水流切

西は鶴島浦新開堤は宮島浦江子川切

北は富吉新田境は今切川口水流切

東は砂山切尤綱引場水際三拾間除懸

内

四拾九町七反五畝拾貳步

安政三辰年十一月御給地入

右別宮浦境目

東は北は古田汐除堤百八拾三間見通外手へ折廻り川成地居床境切南は汐除堤は御林床松切西は古田汐除堤切尤外へ折廻り川成地居床境は堤見通切北は御林床松切

床金百貳拾兩

右は板野郡古別宮浦古田外廻り壹ヶ年請空地萱野之場所市中荒井武兵衛惣領幸次郎新田築立願出に付遂見分浦中障有無相鍛候所故障無之旨役人共申出に付取調候所御藏給知入組川成地株々有之重々遂詮儀願地見込之内へも開歸申付其余一圓御藏奉行申談之上床金鍛詰を以右之通被召上願之通其方名負に申付候條隨分令出精早々築立願下中に地普請等仕開立願下明御年貢無滯上納可仕候萬一不出精に而地普請開地相怠不埒之義有之候へは地床召上猶越度可申付候仍下札如件

文政四己年六月

庄野 徳右衛門 印

伊月 佐五郎 印

三木 繁右衛門 印

右願人方へ

(從是以下附箋)

外に

拾五町程

南角を東へ百四拾間出夫を北へ長百九拾間筋違に見通尤横幅之儀は灘目之

床金五兩

儀に候得は其時々之趣に應し普請相手懸候様

但綱引場之儀は本文下札に委曲相認有之通是迄之運に指支無之様可相心得候

右は小松新田冲手圍境外にて右之通名主荒井幸次郎付添願出候所古別宮浦人共は彼は一應願出に付新田惣裁判人坂東喜右衛門へ右行着申付重々得解申聞候所名主浦人共双方熟談之上内濟仕浦人共は前願願乞下に相及聊故障無之旨喜右衛門手元へ書付を以申出に付見分之上右之通鍛詰を以床金召上幸次郎願之通承届名負に指遣候條隨分令出精地普請等無怠相手懸諸木植付可申候万一不出精不埒等之仕成有之候得は地床召上猶越度可申付候仍其譯元下札に遂付紙置者也

天保八酉年十二月

三木 繁右衛門 印

岸 和吉 郎 印

(麻植郡 山瀬村 役場 所藏)

散田落札覺書

覺

宮ノ北

一下畠五畝拾歩

高壹斗六升

名 負 勘 七

右島地山崎村我等拜地出作人勘七名島之處勘七俾彌右衛門配分當りに彌右衛門娘せん義死絶散田之由同村肝煎並五人組申出尙又相糺候所散田無相違候依之村中人札申付候其方落札に而冥加銀札四百六拾六匁六分六厘六毛六拂指出名島に〇〇〇聞届之名島に居遣所如件

寶曆三酉年十一月十一日

藤川十兵衛印

麻植郡山崎村百姓

茂次右衛門へ

相讓申島地証文之事

宮ノ北五畝拾歩高壹斗六升之内

一下々島貳畝拾歩

高七升

名 負 勘 七

右は當村御給人藤川十之丈様御拜知先年せん死絶散田に罷成寶曆三酉年右御給人様御先代藤川十兵衛様御下札を以私祖父茂次右衛門頂戴仕相控居申島地に紛無御座候然處其方儀控の名島無數右島地名島に相望申に付無據由緒も有之相讓り申度旨奉願上候處無據子細御聞届被遊被下當申十月ハ讓渡申所實正に候然上は來る酉夏ハ御年貢地役共御拜知類作並に其方ハ御動島地如何様共裁判

可有之候且右島地所御役人手前御糺被成候處御餘地御帳面に引合少しも相違無之賣地質入等にも不仕何之故障も無之に付御役人御取立人加判仕上御内鴨野仁兵衛殿御裏判申請讓渡申上は子孫に至る迄毛頭違乱無之候尤此渡御餘地等有之節は其方名負可被受候爲後日御下札相添島地証文如件

天保七申年十月

- 山崎村讓主 彦 兵 衛 印
- 同 村肝煎 田 中 清 次 郎 印
- 同 村五人組 善 右 衛 門 印
- 同 爲 右 衛 門 印
- 同 清 右 衛 門 印
- 同 熊 吉 印
- 同 與 兵 衛 印
- 同 村御取立人 楠 木 清 兵 衛 印

同 村

勘 左 衛 門 殿

表書之通り合承知之候

以上

藤川十之丞内

鶴野仁兵衛印

召上地拂下名居下札證

(海部郡池内徳藏氏所藏)

覺

下川原一

一中上田壹畝拾八步

高壹斗九升貳合

名負 秀次

同所一

一中上田三畝貳拾壹步

高四斗四升四合

同 人

同所一

一中上田貳畝拾貳步

高貳斗八升八合

同 人

同所一

一中田四畝貳拾四步

高五斗貳升八合

同 人

同所一

一中田六畝

高六斗六升

同 人

右五株寛政六年御檢地

畝合壹反八畝拾五步

高合貳石壹斗壹升貳合

右者海部郡吉野村御判形人北川秀次寛政十二申年關所被 仰付被召上地之分同郡奥浦組頭庄屋志方與右衛門へ取調申付候處前顯秀次名負地之株此度入札を以御拂成候處其方落札に相成候に付御拂銀詰銀札貳步拂共七拾三匁八分九厘召上其方名田に居遣候條向後御年貢地役共所並に全可相動候依而下札如件

安政六年五月

尾 西 右 平

赤 川 大 次 郎

稻 田 幾 太 郎

海部郡吉野村

猪 三 太 へ

九八〇
〔名西郡平田彌平氏所藏
御用箱寫控帳中抄出〕

大水に付御注進願寫

萬延元申年五月十五日大水に付御注進願書

乍恐御注進奉申上覺

一當村前新宮川筋先年御普請厚く御手當被仰付候御場所此度大水に付別紙繪圖面之通大疹に付場所間數左に奉申上候

一惣兵衛屋敷東ノ宇吉屋敷西手迄凡百十間内二十間餘西に而北へ切込同四十間計幸兵衛前上堤共北へ十四五間切込同五十間程は所々崩込に相成申候

一伊之介居屋敷前東西二十五間計北へ七八間計上堤共崩込に相成申候
右之通大疹に付而は佐藏居宅納屋丑太郎居宅共三軒之義は流失仕猶又伊之介宇吉幸兵衛喜三郎榮助八十八右六軒之義は居宅柱口堀添散との大疹只今之水先に而は處登住居等難相成引續十三四家之者此後出水御座候はと流失之外無御座甚以歎敷御座候何卒格段之御憐察之上を以前願始末御汲分被仰付急々御見分之上厚く御普請御手當等被仰付被下候はと右銘々共仮成に百姓役相旋罷在候間御慈悲之上を以右之段御聞届被仰付候はと廣大之御慈悲私共迄難有仕合に奉存候依而右場所繪圖面相添乍恐書付を以奉願上候 以上

村中役人中

萬延元甲年五月十六日

勤農御引除

御郡代様御手代

三岡丈之介殿

那文五殿

〔德島市岩野新平氏所藏
手控帳中抄出〕

新田築立其他仕居方寫

弘化二己年五月本々申開候は其御役場空地抔仕居之節諸方殿之儀如何取計候哉之旨尋有之候に付左之通一つ書を以同十七日本々へ指出候事

御藏奉行

一新田築立之儀手元切に而申付來候所天保貳卯年已來伺出候様被仰付候事

一空地仕居方之儀御山下廻り之儀は近來各方御指支之有無水り候上御鷹奉行御普請奉行相鍛立合

見分之上指支無之候得は仕居遣候事

一萱野開之儀御鷹御場所之儀御鷹奉行相鍛是又立合御不用之場所に候得は爲相開候事

- 一 川成名主配分當分預開歸申付積御年貢相懸候儀手許切申付候事
- 一 空地仕居之内本村惡水吐模樣に引除御郡代相鍛候儀も御座候事
- 一 安宅御船屋廻り津田邊之儀は安宅御目付相鍛候上御鷹方相鍛候事
- 一 淡州分空地之儀は手元切に而相仕居林開之儀は御郡代相鍛候上開申付候事 以上

隱田島取調御觸寫

(麻植郡波部菊太郎氏所藏 御用留書帳中抄出)

覺

御兩國御藏御給知隱田島之義相顯候節は死罪追放又は追傳米利銀等も召上候御作法も有之天和年中以來度々在々觸達も有之事に候兼而庄屋五人與共始百姓共末々に至迄相弁居申事に候はゞ全相巧み開添隱地等可仕様は無之候得とも自然年を経候内には地縁に空地有之場所又は野山池隈等聊宛累年耕入過分に相成居申地面も可有之或は島田成敷開等之義隱來候族子孫之者申出度存者も可有之候得とも前顯科之義相恐不申出義も可有之依右様之類此度御藏給知地共屹と遂詮義其ヶ所に當り目積を以相改帳面に相記當丑二月からる十一月迄御藏所へ可申出候於然は御慈悲を以前段科之義は御宥免被仰付田地之義は其趣に寄可遂科簡候條精々相糺可申出候萬一右切月相過外相顯

候におゐては本人は不及言役人共迄其科不輕可被仰付候兼而相觸有之事に候得とも猶又此度相違候條小百姓共に至迄不相洩様急々可被申付候 以上

二月二十四日

左書之通被仰出候に付觸達候條其郡中不相洩様無遲滯令順達廻濟組可差戻候 己上

閏九月廿九日

赤川三郎右衛門

市郷之者共端々朱紋桃灯並に朱に而印書入相用候義壹枚不苦様心得違之者も有之別而不都合之事に候尤地盤御用先に而其向々指免有之目印之義は格別其餘之義向後惣而差留候事

但由緒有之朱紋印等相用來候者並御用に付指免有之向々者早々取調可申出候 以上

港口幅奥行町數調

(海部郡 由木仲太郎氏所藏)

突喰朝兩浦港口幅奥行丁數深淺

- 一 突喰濱中沖合へ 五町 深さ 六尋
- 一 同所水床港

口幅 貳町余 深さ 七尋 奥行 四町三拾間 奥幅 壹町 深さ 貳尋

右町敷之内

口 貳町 奥幅 三町 深さ 三尋

但此所船繫場に御座候

一かこり島 獅子けはへ之間 三拾間 深さ 五尋

一かこり島 龍の崎迄之間 貳拾町

右島 三町沖合 深さ 拾貳尋 突喰濱迄 拾町余

一竹ヶ島北磯 貳町沖合 深さ 拾貳尋

東 貳町沖合 深さ 貳拾尋

南 御境目貳子島通 五町貳拾間 深さ 五尋

西 貳町沖合 深さ 五尋

一大浦 竹ヶ島迄 渡瀬 五拾間 深さ 貳尋

一全所金崎池ヶ倉ヶ前通渡瀬 百間程 深さ 三尺

朝 浦

一御陣屋前濱壹町沖合 深さ 四尋 貳町沖合 深さ 六尋

一小島 東壹町沖合 深さ 拾六尋

但三町沖合にはへ有之候

西 午倉山之間 壹町中頃に而 三尋

南 壹町沖合 深さ 拾八尋

北 右同 深さ 八尋

一那佐港愛宕山ヶ乳の崎見通之間 口幅 五町 深さ 貳拾貳尋 奥行貳子島迄 拾八町三拾間

幅 壹町五拾間 深さ 三尋

右町敷之内港口 御番所前迄 拾三町三拾間 深さ 五尋 幅 壹町三拾間 中頃は

一右貳子島 那佐濱迄 貳町

但此丁敷之内船居へ難相調場所に御座候

一朝網代崎沖合 壹町 深さ 拾八尋

右は完喰朝浦船繫相調候港口幅奥行之丁敷島々沖合深淺共取調奉指上候様被仰付奉畏則帳面取
約奉指上候且寅年潮狂後格別模様相更候ヶ所等無御座候 以上

突喰浦組頭庄屋

己 九 月

海部那賀御郡代様御手代

中 島 要 助 殿
高 橋 友 太 殿

百々伊之丞

九八六

土地檢見に付相談株書寫

(德島市岩野新平氏所藏
手抄中抄出)

嘉永二酉年十二月九日本々中々呼懸有之黒部忠左衛門罷出候所御役場動向之儀御相談株書を以御申出に付其段御仕置へ申述候所夫々被承置候に付相改相勤候様可相心得旨寺澤主馬被申聞候に付向後別帳面之通取改御勤可有之事

御 相 談 株 書

一 御兩國村々空地願之儀右場之儀は御藏奉行一列に而見分之上障有無相仕管來候少數之株は春秋諸改之節見分之上相行着徒御座候株は罷歸候上同役とも申談私共の相談之上相片着來候子細無之株は一列申談而已に而相仕管來候得共以來之儀は仮令委曲無之候とも一統申談私共の相談之上相片着候様仕度旨御檢見役申出候事

一 川成愈上御檢見相濟候は給知之儀は直に給人の地渡仕來候得共已後之儀は人別目録相渡候後地渡仕候様取改可申事

一 夏秋毛損に付御檢見願出候節御藏分は傍示切御帳切給知は高切なれば願出候儀難相調旨一枚相心得罷在候然所御藏分地味見分願之儀は右に相准拔願は不能許容成來に候所御郡代も彼是懸合も御座候而實に難澁之ヶ所は見分爲仕吳候様申聞候に付請込見分仕候事に御座候然所近來は懸合無之而茂見分仕候様成行古法取失候姿に相成居申候依而此後之儀は已前之通傍示切御帳切之願に相成不申而は請込不申様取究可申候左候得は自然願出茂相減可申と奉存候事

一 給知之儀請之上下給人百姓相對次第之御成來に御座候乍併給人におゐては地方不案内之所の御檢見役之内相願御用席を以見分仕請挾量仕遣候類近來多御座候様相聞申に付己來之儀は給人相對相調候面々は成來之通に仕相願候儀有之候は表向覺書を以爲申出御用席見分相達御用之取扱に相成候得は下氣服可宜と奉存候事

一 御檢見役諸御用物帳元相勤候面々受持自分宅へ指置候に付指急取調候節毎々指支勝にて甚不辨利に付何卒御役場内へ爲取寄候様仕度に申合候得共從來右様相成來候に付執夥敷所持仕候故指當置場無御座に付乍不旋無據相流居申候間御役所に有之候得は甚御旋宜敷御座候に付置場之儀

九八七

追々申出度申談罷在候事

一御藏奉行御檢見人とも御用に付出郷中惣而禁酒御座候御檢地之節に相限永々逗留も仕御檢地之儀は百姓共安危にも相懸事故彼は申出候村方も有之儀勞程能相濟候得は一ヶ度座本宿において酒肴振舞候成來に御座候所前日懸御年限中指止居申候得共根元右祝儀之意味合とは乍申御用先において酒肴取扱候儀甚不都合に御座に付己來は屹と指止候様可仕事 以上

損田願上書

(三好郡安宅喜市氏所藏)

万治三年御帳

一下々島四畝廿壹步

高壹斗八升八合

名負 又右衛門

内 三畝明和田成に引

残る壹畝廿壹步

高六升八合引残り畝

此内 拾三步

高壹升七合三勺三才

但し幅壹間に長拾三間

右は常村新池御普請被仰付難有仕合奉存候然處内さらへ石砂取扱候場所無御座候に付損田奉願上

候處此度御見分被仰付難有仕合に奉存候乍恐御慈悲之上損田被仰付被遣候得者重々奉存候依而私共帳面奉指上候 以上

未三月廿九日

池田村五人組

柳左衛門

卯藏

嘉平

勸農御普請方

御奉行様

以下檢地及檢見に關する記録は多少重複を免れずと雖も參考として各冊共取捨を爲さず之を蒐録したり

御檢地一卷

(總島市森敬介氏所藏)

一名東郡之内ノ宮村惣御檢地去年被仰付候節三木夫右衛門成田八太夫に被下置居屋布とも御檢地被成出目有之候に付今度相調候へは此度之出目被下方主水殿に被申越候條可得其意旨寛文七

年豊前殿書付來る

右の外に御年貢成之畠居屋布之内へ入り有之高二斗六升二合之所此度御檢地仕候所四斗二升四合に罷成一斗六升二合の出目御座候此分は出目共有來通御年貢成に被仰付旨被仰渡也

一御代官所上り則御檢地有之村は田畠相應之御年貢上納仕候然處外に夫銀指上候而は百姓ども迷惑仕候趣御代官中申上置候依之御檢地村々當子の年秋々向後御赦免被成候條可得其意旨貞享元年主計殿御証文來る

一元祿七年那賀郡西原村同郡大京原惣御檢地之刻慶長九年の御檢地帳を以吟味仕候所西原村之内高二百十五石余反數十町六反余大京原之内へ年來紛籠り有之に付兩村御檢地は仕置右紛反高之儀同年十一月十八日和泉殿へ相伺候所只今迄の有姿之通紛反高大京原村之内へ加候様に被仰渡尤右之趣意を慶長の御檢地帳に奥書加へ置候様に被仰付件之趣書記置申候事

一打直御檢地有之村々古御檢地帳には奥書加へ其村々に殘置申候給知入組之村々は新御檢地帳にも右古帳之年号相記御藏入分此度遂御檢地旨奥書加へ古新御帳共其村々に相渡之事

但往古は古御帳悉御奉行方へ取返し御藏入分新御帳相渡給知分は處々庄屋五人與共右扱帳仕奥書加へ相渡置申候處延寶八年六月以來右ヶ條之通仕來候事

一御藏給知入組之在處御檢地之節給知之内古來々計代之割違有之反畝に高と相違仕節不足之分は足し被下通は御藏入罷成候事

右は勝浦郡中郷村御檢地に付元祿十年和泉殿へ相伺候處御藏給知境不知之節過不足割符之御法障儀無之元來計代之割誤故右之趣御聞届之上件通向後可相極旨被仰渡也

一御藏入無之一圓之給知在處に子細有之地引仕候節も水帳之義御藏所々直に夫々給人方へ申達る筈之事

右は那賀郡大原村相改之節右村給知一圓に而ヶ様之例無之に付元祿十三年主水殿へ相伺候所御藏所々直に夫々可申達候尤ヶ様之類向後伺不及件之通可仕旨被仰渡也

一御山下並之村々御檢地之節諸士並未々御奉公人拜領屋布圍之内に有之候御年貢地は圍外類地並之矩に定田地へは竿入不申候事

右は寶永元年名東郡富田浦御檢地之節伊豆殿宮内殿へ相伺候所舊例詮義之上御聞届右ヶ條之通可仕旨被仰渡也

一其村々給人高拜領仕罷在地分ヶ無御座分御檢地之節御知行之通聞取を以古帳面之内相渡申筈之事

右は三好郡加茂村御檢地に付寶永二年宮内殿へ相伺右之通可仕旨被仰渡也

- 一寶永四年春三好郡佐野村打直し御檢地被仰付節彼村之義入布御檢地處に而百姓共控之田畠反畝をも不存あさな等も一圓不分明然處右村に罷在候石川官兵衛義高二十石所に而拜領分之内大石二斗余御藏分辻平しに而所務被仰付殘る十三石余之分官兵衛先祖か切畠に而願被下置有之候右之分彼者所持帳面に而外に引合可申証據も無之地境不分明候に付其儘可被下哉竿入改可被遣哉之旨主水殿へ相伺候處舊例詮義仕候様に被仰渡所々郷中小高取手前も詮義仕候へ共舊格に罷成候儘成義も無之候に付猶段々譚談之上右拜領高十石七斗余當檢地之通地床相渡候余田の分は可被召上旨被仰渡也

但右以來所々御檢地之節右様之類有之其時々相伺何れも右之筋に被仰付候也

- 一御檢地之節御檢地帳に無之田地給人又は御藏入にも罷成居申義有之節御檢地帳に有之候田地を以給人方へ替し下件之御帳外之田地は被召上新開に被仰付候事

- 右は正徳二年名西郡高川原村御檢地に付主水殿へ相伺候所右之類右々條之通可仕旨被仰渡也
- 一御檢地之節一々所之田地兩給人方へ二重に入居申義有之候左様之節は一人給人方へ御藏入之田地之内に而相渡二重入之仕形相改申候事

右は三原郡山添村御檢地に付正徳二年主水殿へ伺候所右之通相改可申旨被仰渡候其以來件之通相改來候事

- 一諸士拜知之田地も荒し置外に而空地之場處開立給人方へは有來通年貢納所仕給知床は荒し置又は其荒床外人願出新開に罷成或は右荒床松等生し御林之内へ罷成居申土地有之節は給人拜領之地床引戻し空地之場處は御藏知に被仰付持懸り出作之道理に被仰付候事

右は津名郡深草村生駒丹後拜知之内に右之品有之右村惣御檢地之節相顯正徳三年主水殿織部殿へ相伺候向後件之通被仰付旨被仰渡也

- 一正徳五年の春三好郡山城谷御檢地之節三名士大黒清藏西字喜之進兩人拜知右谷白川名に御座候所拜知水帳無之御藏給知地床不分明に而地引仕義相調不申に付同年三月主水殿織部殿へ相伺候所右一名へ竿入余田分御藏高と御折紙高へ割符仕給地へ相渡可申旨被仰渡候事
- 御檢地之節給人御折紙高元に相立候事

- 一給知入組在所御折紙高に水帳過不足有之儀御座候此段如何可被仰付哉兎角御折紙高を以水帳出し物に候へは以前之誤に而過不足有之義と相見へ候過有之方に而被召上不足有之方へ足被下御道理に御座候畢竟指引仕余分御座候へは被召上不足には右拜領之類帳御藏入高を以足被下類帳

に御藏入無之候へは外帳之内は足被下候は及申間敷候

但追而正徳五年右趣之委曲相極候節外帳之内に而も被遣害に罷成候事

左候へは給人水帳従上被仰付相調直申様に相極不申候而は右之段も指引難仕候其上村々紛高有之義多御座候右之通相極申候は御爲之義も出来可仕候尤御檢地之刻右之段正路に於申出は其科御赦免被成筈と相極惣体御檢地所給知入組在處は夏之内手明分詮義人被仰付吟味置候は御檢地支も無之分明に罷成給人も宜可有御座哉不詮義に仕候而は彼是跡を支之義出来可仕候其上相顯不申惡布義多可有御座哉之旨正徳二年主水殿織部殿へ相伺候所御藏奉行とも右存寄之通可相極旨尤其科御免之義は其時々可相伺由被仰渡也

一給知入組村々御藏分御檢地被仰付候節は給知水帳と御折紙引合相違御座候節は御折紙之通水帳相直申させ不足有之分は類地御藏高に足被下御折紙之通相改申候御成下りに御座候所猶又正徳五年那賀郡黒地村御藏分御檢地被仰付候所給人數多入組御折紙高と水帳相違仕或は折紙には黒地村と御座候處段々隣村を拜知之内へ入込被是混雜仕候に付主水殿織部殿へ相伺候所右過不足之義折紙之通相改並他郷へ入組申分被召上黒地村に而替地被下立敷に至迄も同然に河分御折紙之通向後とも右之通相極可申旨正徳五年被仰渡也

一惣而諸士御折紙に何十何石余と有之分限帳並に水帳に右餘高之員數相顯候へ共不同御座候分如何片付可申哉と正徳五年主水殿織部殿へ相伺候所余高之儀は石に不足之義と相見へ左之通九之數を用ひ可申旨尤向後も件之通相極可申旨被仰渡也

| | |
|------|----|
| 何千石余 | 九斗 |
| 何百石余 | 九升 |
| 何十石余 | 九合 |
| 何石余 | 九勺 |
| 何斗余 | 九才 |
| 何升余 | 九拂 |

給地御折紙高之通と相極め候に付改様之事

一改之村御藏給知入組候節御折紙高と水帳違有之節は外村御折紙水帳とも引合惣辻に相違無之御折紙之通に候へは水帳其儘に用申筈之事

一外村之引合惣辻に夕才に而も相違於有之は改之村切に御折紙之通水帳相改申筈之事

一改之節外村に而御折紙と水帳過不足とも高之違有之候とも外村之義は其村之改に相當る迄は古

水帳不及相改候事

九九六

一其村改に付只今迄惣辻水帳過高有之候給人も不足高に罷成又は不足高有之候給人過高に罷成候素不足高有之候給人猶又不足増候辻外村に掲り無之兎角に惣辻行着不申候へは村切御折紙之通相改等之事

右は正徳五年黒地村御檢地之節主水殿織部殿へ追々相伺右之通相改可申旨之仰越也

但前兼は御折紙之通村切に水帳直し外村御折紙水帳高相違之有無に不相拘改之村迄一筋に相極來候事

一御家中諸士知行被下候節は御折紙又は御証文之寫し御藏所に儘成記録無御座每々地方改之節申觸寫指出申候然處急御用之砌諸士中へ申觸候而は諸士中にも彼是六ヶ敷間に合不申様之義も有之に付此後は御藏所に而相改置候様に被仰付度旨享保元年御當人方へ相伺右之通被仰付候間右之趣夫々觸口へ御藏奉行共方へ申達右寫書付取集候様に被仰渡に付翌年正月夫々申觸御兩國諸士其外とも知行高之下分御折紙御証文之寫御藏處へ取揃申候事

川成愈上之事

一御藏給知愈上改相濟給知分目錄夫々給人中人別に相調御當人へ御藏奉行方へ指上御披見之上夫

々地床目錄之通給人中へ被下置候條目錄御藏奉行方へ直に相渡可申旨御當人仰を以給人中御藏所へ呼出し右之目錄相渡申候事

但須本住宅之面々は御藏奉行方へ書狀相添右目錄給人中へ遣し御禮之義於須本御當人方迄被申上候様申遣候事

右は正徳六年今田六郎左衛門陶山與一右衛門拜知川成愈上改之節御當人へ相伺件之通相極候

一諸士拜知田島埋上節大川筋は不及言少々溝川隔候而も被召上來り候雖然御壁書に御國中洪水之節川成候田島之儀百姓等及申分には則檢地帳を以其地相改當時川相付方可爲理運旨被仰出上は自今以後後綴川相隔候といへども其給人へ可被下置旨天和三年主水殿御書付來る

一御藏入給知共川成愈上改之義其村中申合書付仕庄屋五人組奥書給知分は給人添書付加へ御藏處へ改之願申出候様に向後被仰付旨元祿十二年主水殿被仰渡候郷中觸之義其節郡奉行方へ御藏奉行方へ申遣候事

但先規は御藏入川成愈上改之義目路見奉行方へ百姓共願出給知分は給人中紙面百姓共書付相添御仕置所へ願上げ御當人御聞届之上御藏奉行方へ被仰渡遂御檢地來候へ共追而右ヶ條之通被仰付候事

九九七

一右御藏給知共川成愈上場所庄屋五人組ども願出次第時々承届立毛付申付御檢見人指出積年貢御藏給知共一所に御藏へ納置改之義給知は給人紙面相揃之上遂御檢地年貢は割符仕右之疊年貢夫々給人中へ被下候事

一右開歸り之年々の年貢給人へ被下義先年より有之候處猶名東郡南新居村愈上改に付延寶二年主水殿相調疊年貢給人方へ可被下旨被仰渡候右以來毎々件之通被仰付候尤正徳五年三原郡廣田宮村御檢地之節今田大治陶山與一右衛門拜知川成愈上有之年來上年御所務被成候改之土地床並に其年之秋所務被下右疊年貢之儀は段々詮義之上外々とは品違候人割有之右兩人方へは疊の年貢は不被下旨同年七月主水殿織部殿被仰渡也

一不竿當地有之其開き人子細有之田地被召上入札等を以外人へ被下候節其村愈上改之砌右不竿尙給知之地床に相當り申節は右地主より被召上給人へ被下地主方へは前かご被召上代銀田地之割を以被返下候事

右は名西郡佐藤須賀村愈上改之節元祿十二年和泉殿へ相伺右様之類向後件之通可仕旨被仰渡也

一給地川成川向へ愈上り候節其地床に雖相不當候素之地主名負に被仰付於田地は給人へ被下候事

但川向愈上之儀地方愈付之御法とは違川成町敷を以割符仕上下夫々矩を付先計代近き場所を相渡來申候事

右川向愈上之儀中古は給人へ不被下御藏入に被仰付來候所其後鏡川隔とも給人に可被下旨被仰付其節之改正式之儀は田地崩残り母地が川中原迄も竿入川向愈上迄竿行届候へは給人に被下竿打外候へは御藏入に被仰付筈之處元祿五年板野郡西貞方村御藏給知川成大分川向へ愈上り御檢地之節御藏奉行存寄崩殘母地が竿入候而は川向迄竿行届申間敷候左候へは當時川相付方可爲理運旨之御條目に振れ申段如何之旨右同年主水殿へ相伺向後は右ヶ條之通被仰付候事

但右貞方村川向愈上改に付給知分川成都合三十二町六反五畝此内三町程前廉愈上新開御檢地被仰付御藏入に罷成其後給知へ入有之候同九町程右改之節愈上居申殘二十町六反五畝程未愈上り不申分右給知入之三町を指除殘二拾九町六反五畝と相極り有之候に付右給人方へ愈上り渡條之儀是又相伺候所彼三町の分は替地不及被下前後二拾九町六反五畝と相極給人へ被下餘田有之節は御藏入に可被仰付旨被仰渡也

一給知川成之内先年は諸士知行高減少被仰付節は川成分被召上高と被下高と割符被仰付候故右川成分御藏給知へ相分り居申類御座候右様之川成愈上り改候節根元被召上候節御藏給知高辻に而

引置申故御藏給知之反畝相分り不申候に付右愈上改之義は御藏給知へ割符に仕候事

右は麻植郡森藤村愈上改に付元祿十六年主水殿へ相同伴之通向後可相極旨被仰渡候

右々餘之儀近來は水帳改申様に被仰付候に付高辻而愈上り割符之儀無之地株難分處は何分相糺候
て給人へ被下候事

一板野郡東馬詰村給知愈上改之節給人川成敷反畝間尺不相知水帳にも數何ヶ處と迄有之相改可申
元無之候に付右村相給人之川成敷有敷とも打込彼村有高川成高に割符其當りを以反畝何程と相
極申々外有之間數旨元祿八年和泉殿へ相伺候所右之通可仕旨被仰渡候

但右之外諸給人村々に而川成敷床改之節伺床一方二方と迄有之反畝間數方角相知不申何れへ
も難片付類毎々御座候右様之節は少に而も其縁相考生敷の反高に割符或敷殘地へ竿入其趣に
を彼元改様不同御座候に付其時々御當人方へ相伺極候事

一開歸り改之節諸帳面引合御檢地帳竿廻り之通繪圖申付地押仕候節給地之百姓共川成不申巳前之
地床覺居申由繪圖之通に而は地床違改難請杯と申族有之節不埒之申分に候へは押而改仕候事

右は那賀郡中大野村愈上改之節繪圖之通に而は其改難請旨百姓共及異犯申候に付正徳三年主水
殿織部殿へ相伺候所向後件之通押て改仕右様之類其心得可仕旨被仰渡也

一板野郡奥野徳命兩村御藏給知入組川成愈上改之節元和四年責出し御帳肩書に古田何反か出ると
有之候所右肩書母地を以古田御帳に引合申候所或は合い又は合い不申候に付都而母地に應給人
へ相渡申義難仕候に付母地に合不申株は元和之御帳用ひ申候事

一右於同所給知之内年々之御帳數之内に無之田地生地に而有之分御成來之通古田帳之内を以替地
被下件之地は御藏入に被仰付候事

一於同所あさ無しの下よ一株御藏給知相分れ入居申分之川成愈上り有之是又給知分御藏入に被
仰付給人へは愈上り類帳之内に而替地被下候事

一右兩村境に而先年愈上地論處に罷成三分一は奥野村三分二は徳命村と其節之郡御奉行落着申付
元祿二年改御奉行罷越奥野村分は不殘御藏徳命村分は不殘給地へ相渡置申候右御藏分は元祿寶
永兩年中に新開遂御檢地其後打直に罷成申候所正徳四年愈上改之節前廉改之通に而は當時之竿
廻に相當不申地株狂ひ申候に付當時竿込之通改直申候事

一右兩村給知分は寛文之古帳に而相渡御藏分は其後打直有之段々愈上り入組申候に付御藏給知共
一旦古帳に而相渡給地之地床相居置御藏分と立歸り打直御帳を以二重改に仕候事

一元和四年同八年御帳徳命村に所持仕候所其節之御奉行名印は儘に無御座候へ共御帳之様に相見

申候然處御矢倉之御帳詮義仕候へとも相見へ不申に付右郷帳用ひ申候事
右六ヶ條板野郡奥野村徳命村愈上改に付正徳四年主水殿織部殿へ相伺候處件之通夫々可相極旨
被仰渡也

一愈上改之節御藏給知夫々引渡餘田有之節は被召上入札を以御賣拂被成御成來に而候事

一隱岐様御地方之内名東郡南新居村水帳誤有之御檢地帳と反畝之書違有之其外所々右様之類其通
に罷成居申候所右村愈上改被仰付候に付相障申品御座候に付正徳六年主水殿織部殿へ相伺候所
右様之類時々不及申改直し可申旨被仰渡也

一御藏給知入組同作人之田地川成前かご御檢見人改候とも愈上御檢地之節は給人水帳之通反畝給
知へ引渡割符不仕殘分御藏入に罷成候事

一御藏給知同作人之田地川成上り知に罷成分其後右川成株之内愈付開戻或は新開御檢地請申株殺
先へ反畝程檢地請相濟申株に候共御檢地之節は給知へ竿を入水帳之通畝數給知相渡是又割符
に不仕候事

右貳ヶ條正徳貳年主水殿織部殿へ相伺右之通可然旨被仰渡也

一惣而愈上改之儀先年改之御帳只今こは其筋違申儀御座候故三拾年計以來之前と改用不申當時に

片付申様に成來り候へ共儘に御法と相極被仰付不奉承知候兎角前改用申候而は尙改難仕に相極
申候條尙後彌知改消候而尙改に仕候様に被仰付候は愈上り改御法式に相記置申度旨享保三年御
當人へ相伺右之通可仕旨被仰渡也

立毛見分之事

一麥見分に御檢見人御藏奉行之内河道に而毎年罷出來候在々麥之高下大圖御座有間敷様に奉存候
四五ヶ年見分無之候は百姓彌作付情を出又は只今迄麥不仕地も此以後麥地仕候處も可有御座
様に奉存候

一秋立毛も毎年見分仕候へ共是又右同斷奉存候併見分仕宜布所は夏秋とも例年之通罷出可申候

右貳ヶ條延寶八年賀島主水殿へ相伺極る

但洲本は稻田九郎兵衛殿へ書狀を以相伺極る

地行割地渡之事

一新地御加増共知行割相濟給人に被下節田地之儀只今迄は其村々庄屋五人組相改渡し來候然とも
尙後田地相渡刻御檢見人御横目加へ其村々へ被遣候條田地夫々遂吟味尤一株之地面割地に罷成
候は悉竿入致割符地面分明に仕給人へ御檢見人共方可相渡事

一知行割相濟上水帳之儀庄屋五人組相改候帳面給人へ渡來り候へ共自今以後は右之者共改候水帳御檢見人又は御横目見届之上に而奥書名印仕給人方へ可相渡事

右貳ヶ條元祿八年御當人御書付來る

一跡知減少或は新知渡割地有之節宥條不足も檢法之通割符可被仰付旨元祿十三年御當人へ相同伴之通被仰付候

但元祿九年に相同上被仰付候は新知御加増並減少割共地渡之節割地有之砌不足分は御藏方足し被下過は被召上筈に相極り候へ共追而右ヶ條之通被仰付候

一大島夫左衛門跡知五拾石被召上俵八郎兵衛に百五拾石被下地渡之節名東郡下町村八郎兵衛に被下田地之内親夫左衛門水帳之内貳株に而田壹反百六拾四步高壹石五斗貳升七合之内貳斗三升三合立木四郎兵衛分と有之四郎兵衛水帳には右高迄記反町無御座候に付右田地割符仕四郎兵衛水帳に反畝付記相渡可申哉之旨元祿拾年御當人方へ相同伴之通可仕旨被仰付也

地震に付潮入地引遣事

一寶永四亥年十月地震に付潮入地村々に有之候へ共援檢見之儀は不被仰付御法に付其分に仕置候へ共下民別而迷惑之儀故正徳貳年加島主水殿山田織部殿へ相伺候處砂入荒等之類と思召候條御

藏奉行可任了簡旨被仰開に付南北村々御藏奉行御檢見人罷出田地引捨或は請等下け遣候事

追而板野郡鯛の濱村に而高三拾五石餘之處右見分之節申殘有之趣百姓とも申出に付享保元年猶又相伺候所四ヶ年以前之通に可仕候此後少々之義は不及申伺何分とも可申付旨被仰渡也

御藏給知數開事

一寺澤式部武藤伴右衛門拜知之内數開有之に付跡目被下節數開分可被召上哉可被下哉と相伺候所緞田地に仕候とも數分田地に可仕候自今以後も右同然之事実上は高には結ひ下間數候上り知に也候數開高は高に御結被成筈子の五月被下仕置て以被仰渡也

一東根舍人拜知麻植郡山路村數開之儀御前へ主水殿御伺候處奉行處に斷不申開に付被召上候自今以後給人方々奉行處へ無案内開仕候は、被召上筈に候條其御心得可被成候拙者義方々可申達由に付如斯之旨辰五月廿二日小野兵太夫高島與左衛門竹内勘五左衛門方々申來候也

一渡瀬久右衛門跡知同名夫右衛門に被下節高五拾石被召上に付村々數割符之儀數御奉行へ申遣候所那賀郡荒田野村に數開と有之旨數御奉行を申來に付所の庄屋召寄相尋候へは先給人西堀彌左衛門拜知之節を數開壹畝九步有之候へとも三ヶ年に壹度藏運上上來候故惣數之内へ書加へ候由申に付此段如何可仕哉と主水殿へ相伺之處此分可被召上候向後其通可相心得旨貞享三年に被仰

渡也

一勝浦郡大松村百姓勘左衛門預り御敷反畝不足仕候に付母地御改被仰付候所御敷拾三步五厘不足母地之内貳畝出目有之に付元祿九年主水殿へ相伺候所御詮議之上右貳畝之内十三步五厘御敷不足にたし敷開に被仰付殘分御敷反畝母地之反畝に割符可仕候向後々様之類如斯沙汰可仕旨被仰渡也

無地高之事

一村々檢地有之節其村々に給人高迄拜領仕地分け無之右年貢は御藏百姓方並來り申儀有之節右高に相當る田地打合て給人方へ被下候事

右は麻植郡山路村御檢地に付貞享二年主計殿へ相伺候所向後右之通可仕旨被仰渡也

但右以來給人無地高有之節は御檢地之度々田地改置目錄に認め御當人へ相伺候上右地床被下來候事

空地新開之事

一郷中空地之義此以後御藏所へ御付被成候條遂了簡御爲成之様可仕候空地障有無吟味共何れも御役人へ被仰付候間得其意可被致詮義候

但以前は新開願之義は目路見御奉行請持に被仰付障有無之義は郡御奉行へ請持來候へ共右被仰出以後新開一卷御藏處へ被仰付候其品段々左に相記

一目路見方萱野敷之義向後御藏所へ御附被相候條御勝手成候様に夫々御奉行共可申談尤相伺申義有之節は彼御奉行とも別而罷出可申上候

右之通寶永七寅年主水殿織部殿御書付を以被仰渡候事

寶永七寅年九月廿五日於御城此度空地御藏處へ御付被成候間郡所御國中御觸させ被相候間御觸様之文段書付可指上旨主水殿織部殿被仰渡に付左之通認指上候

一御國中山里空地目路見方萱野敷御藏所へ御付被相候且又只今迄新開之義目路見奉行へ願出障有無義郡所に而相鍛來り候へ共此以後山里右様之願御藏所へ可申出候並新開之義も御藏所へ願出候様に被仰付候尤障有無之義も御藏所へ被仰付候條右之趣郷中へ可被相觸候

右同時左之貳ヶ條主水殿織部殿御書付を以被仰渡候

今度御國山里空地御藏所へ御付被成候向後空地之趣次第田畠新開に仕候義は勿論竹木其外何に而も植付或堤床御林床萱野敷等に而も又は御林之内に候共見立候て田畠に仕諸品植付候義裁判被仰付候間郡御奉行林御奉行方へ不及相達了簡仕若右御奉行方障品於申出は申談時々相伺可申候尤

傍示境目論處其外之義も郡御奉行林御奉行裁判仕候品は有來通兩手崎へ受持被仰付置候事

一山里新開之義只今迄林御奉行へ願出來候へ共地之儀御附被相上は向後御藏所へ願出御藏奉行共受持御林奉行立合相談仕可然處は双方も可申候尤林に被仰付上は御林奉行可爲裁判事

寶永八卯年三月空地改一卷に付主水殿織部殿へ相同左之通可仕旨被仰渡覺

一空地札御檢見人証文御藏奉行共見印仕候事

一空地見分之節は御目附不被仰付候事

但御目附可被仰付哉之旨相同候所御目附御出し不被成筈に相極候

一空地新開田島願之村々に至り願人呼出庄屋五人組召連願地之地引申付遂見分町反相積申候事

一右場處開立候時節相糺御年貢員數相積御檢地有之迄は相定請合書物申付相極め候事

一畝下相願候分は詮義之上畝下年數相殿相應之願に候と相極不相應之願に候へは不承届兼而之願

紙面直に指返し申候事

一障申出場所之義は一應承り吟味之義は小百姓共障は其村庄屋五人組申付或は庄屋五人組之障他

村に障は組頭庄屋召寄吟味遂させ申候猶又落着無之候へは直に手詰之吟味仕答兎角落着無之

候へは先浮置申候事

一御普請相願候開地之義は造用積書申付御檢見人申談御損益遂算用罷歸り猶目路見相談候上相極申候事

一山島開之儀は先被仰付間敷候但中島以上之土地里分害に不罷成候へは致了簡申付候事

一願之場所身分遂詮義田地に可成所は諸木並殿等可申付事

一地床代不被召上候故先願之外へは被下間敷事

一野山を林に願之義只今迄小松は渡御林奉行の枝下運上取立來候分は殿願紙面指出有之候共被

仰付間敷候尤右指出書付を以庄屋五人組に申付帳面に記可申候事

一御林之内に而も御爲宜布處新開於願出は被仰付趣兼而被仰出候處右之段何方も御林奉行方へ

被仰付無御座由御林奉行共申聞指當右之品に付指支申義御座候趣山田織部殿へ相同候所然上は

御普請奉行御林奉行方へ被仰渡御覺書相調可指上旨正徳元年織部殿被仰渡候に付左之通相調上

候

御普請奉行方

御山下に而各支配之土地之内新開等に御藏奉行共方へ願出候刻可及相談候條被申談上列而可被

申聞候 以上

御林奉行方へ

御林之内空地有之新開に可成所願出は見分之上開に申付候様にと御藏奉行共方へ被仰付間左様に可被相心得候 以上

一於四方原新開仕候は、自今以後開申年拾ヶ年御年貢御赦免被成拾壹ヶ年御年貢被召上候間可被得其意候事

慶安元年霜月六日

賀島主水正

平尾右左衛門殿

右之通海部四方原村新開下之義に付主水正證文出居申に付同郡目路見御奉行共存寄右證文之趣御立替御國中並に見分之上下被遣候様に被仰付度旨右目路見御奉行共申出候に付寶永七年於御城主水殿織部殿へ相伺候所古來証文之趣御立替被成候條向後見分之上相應之下遣候様に被仰付旨被仰渡也

一淡路御國新開之儀彼地井水御奉行方へ願出右御奉行方に而下相極帳面に仕立同處元所へ取揃御藏所へ指越御藏奉行御檢見人渡海之節相改申候事

但前廉は右帳面元之面々方に而取揃置御檢見人渡海之刻請取來申候處元祿十四年仁尾右京

方へ須本元へ被申達向後右ヶ條之通仕旨被仰付候事

一苦萱野場所新開願出候節御藏奉行方安宅御目附方へ申談存寄御座候節は双方申伺答に候事

一只今迄苦萱生し不申土地も此以後苦萱野に可成所御座候へは双方申談指留置申答に候事

右は近年苦萱野少く罷成候段如何に候安宅御目附御藏奉行申談萱野多罷成候様に有之度旨享保三年賀島主水殿山田大隅殿長谷川伊豆殿賀島長門殿へ被仰渡候に付相談之上書付申伺候所可然旨被仰渡也

一村々藪枯失申土地令詮義随分新開に取立候様可仕候並無用之土地又は悪島等遂詮義新敷に取立可然處随分植藪仕候様に可致了簡候此段も先年御藏奉行共に被仰付候へは猶此度藪御奉行之面々にも被仰付候條宜布可遂詮義事

右は寶永元年十月廿八日山田織部殿御書付を以被仰渡御ヶ條之内也

一川除堤壹歩に付二厘宛

一地崎之原崩等相應之御年貢

右之通被召上下見合に仕竹苗望候は被遣地崎之者竹植申様に被仰付地崎之者望不申候は、外望之者に植申様に被仰付御年貢成は御代官御運上は御藪奉行取立に可被仰付候哉と正徳貳年四

月十八日主水殿織部殿へ相伺候所存寄之通被仰付旨被仰渡候在々觸之儀も相伺候所郡御奉行へ御藏奉行方申遣也

右之通相極候に付猶又享保五年十二月十三日御當人方へ相伺竹植申上は數御奉行へ引渡竹苗之義望人有之次第敷方へ御藏所申達夫々相渡申答被仰付候事

一山里空地新開之儀御藏奉行請持御林奉行立合申談遂見分可然處は双方申出承届候上御林に被仰付來候然共双方見分仕候御用指支難相調右願年々相滯其儘空地に而罷有不成御爲趣に候依夫右願出候儀は只今迄之通件之場所見分之義は双方不及立合先御林奉行迄遂見分御林に被仰付可然處は申出承届候上可被仰付候追而御藏奉行遂見分相障義も有之候節は御林奉行申談之上可申出候 以上

右は享保七年二月七日山田織部殿御書付を以被仰渡也

隱地之事

一御兩國御藏給知共田島並開添或敷或敷開附新林共隱置候輩訴人有之又は吟味之上相顯候節は死罪御兩國御追放品に追傳米料銀被仰付來候就夫從先規右之品隱來族子孫之者申出度存者も可有之候へ共科之義奉恐不申出事も可有之候因茲當酉四月來戌の極月迄貳ヶ年之間に古田新田

共右隱田仕候旨御國奉行處へ地主申出は其科御赦免被成彼田地は依其趣御了簡可被成候尤右兩年之内不申出候而其以外訴人に出る物於有之は田地は訴人に被下候本人科之義は死罪御追放或追傳米等前々之通可被仰付候條件之趣御國中可觸申候旨御意に候 以上

卯月十日

一隱田地之義當夏被仰出之通今年之内申出も雖於有之は其村に新開並に御檢地被仰付右之地は本人に被下有來通御年貢可被召上候條可被得其意候仍之如此に候 以上

酉八月九日

御藏奉行當

長谷川主計

一隱田地之義當夏御國中就被仰出今年之内申出者有之節は落着別紙書付之通被仰付候條可被得其意候此段御國中へも申渡置候間其時々可被申談候 以上

八月九日

御藏奉行當

長谷川主計

一往古古川成砂入に成申土地彌途詮義開戻等之願無滯様々村々可申觸候万一下民之心得誤に而不願出下に而歛入等仕置候様之處於有之は此度有体に申出候様に可仕候於然は隱置申科御赦免可

被仰付候前々御藏所々改置候川成引帳を以疑布村々は屹相改可然候村々隠地之義先年之御觸之上其刻申願れ願出候族は其科御宥免被仰付候其儀存誤隠田於有之は是又此度急度申出候様に可仕候申出次第其科指免改可被仰付候猶疑布村々急度御藏奉行共相改可申候事

右は寶永元年十月廿八日山田織部殿御書付を以被仰渡御書付之内也

淡路御國請免之事

一御兩國御藏入請免被遣儀御判物之通御藏奉行共了簡仕候事

但淡路御國分先年は請免被遣義九郎兵衛殿々御藏奉行共へ御證文來候處御藏奉行彼地へ渡海之刻請免被遣儀御兩國一樣之御筋に被仰付度旨存寄之趣彼地御下仕置之面々へ及相談候所九郎兵衛殿右之趣御承知之上御藏奉行御檢見人共御呼出し右存寄之趣猶御承知被相候追而元祿九年十月彼地御下仕置迄右請免之儀御藏奉行共方へ申出候様に被仰付旨被仰渡候由御下仕置か申來り右以來御兩國一樣に罷成候事

痛在所御救並請免之事

一在々困窮之節只今迄は請に而御用捨有之候故應高申に付田地大分所持手前迷惑不仕者に御救免被遣困窮人之當り米少御救之詮無之様奉存候其村一統痛申所は請に而御用捨候共痛之不同有之

村は御代官遂吟味御藏奉行相談之上疼之依輕重に米何百石何々年に年數立御救被成段御爲可然旨延寶八年長谷川主計殿へ相伺向後件之通被仰付候並御藏奉行了簡に而用捨分も痛之不同有之候は右之通可仕旨被仰渡候

一在々所柄續に付請免年數切御救之御訴訟申上節御當人御聞届被仰付旨御証文御藏處へ御出し來候へ共以來は立毛迄之痛は鍛年數を切り訴訟申上候而御藏奉行了簡之上免可遣候義外痛雜御訴訟申上節は御當人御聞届御藏奉行呼出し御詮義之上可相極旨亥五月三日賀島主水殿被仰渡候

給知損亡に付依願御藏々足米被下事

一惣而御家中諸士拜知損亡之節依願請三つ成に不足之節は御足米被下候但し米麥夫銀品々請にしつ三つ成に無足之節は右之通足米被下候事

但元祿十五年二月三日澤瀬惣兵衛梯太兵衛拜知損亡に付三つ物成相當り候様に足米被下置旨和泉殿御書付を以被仰渡候

牛飼原之事

一御國中牛馬飼野從先規御檢地請之運上銀近年相改御檢地被仰付運上銀當卯年々御救免被成候條當年々古新御運上銀可有捨候然といへとも村により牛飼原大分有之處は其村相應に相渡殘野

は菅林に可申付候尤近年新開に罷成牛飼原之義は鎌下之内有來通運上銀取立可指上候旨横野宅
右衛門山田一郎右衛門に申渡證文遣し候間可得其意旨延寶三年主水殿御書付來る

給地川成高替地並井床替地之事

一那賀郡八幡村上知御檢地有之節同郡今津浦稻田丹波拜知之時分八幡村給知之内井床に仕今津
浦に而替地給人中へ相渡置候に付右子細之儀彼村給人方へ相尋候へとも相知不申に付先年伊豆
殿へ相伺候處本知八幡村に有之上は右村御藏入之内に而替地被下置今津浦分は可被召上旨被仰
渡也

右之外御檢地之節件の類右之通地床替被仰付來り候

一西尾彌一左衛門拜知高之内川成百石被召上替地百石被下置旨元祿五年八月主水殿被仰渡に付
川成高百石之人をも被召上候は被下高百石分に人割入可申哉之旨相伺候處人は不及割に高迄被
下旨並右替地片所務に而地方被下義御成下り無御座は如何可被仰付哉之旨猶及相伺候所新知と
は違申候條秋成可被下置請三の七分にして被下旨被仰渡百石之割相極候

但正徳三年十一月中内惣右衛門拜知高之内川成湖入分共高百拾七石餘替地被下候西尾彌一左
衛門に被替下候通之割に相准し翌年の夏所務被下候尤是又人數割には不及旨主水殿織部殿

被仰渡割相極惣右衛門替地被下候

一津田宇右衛門拜知川成高七拾石余原九右衛門拜知高六拾貳石餘替地被下置候に付有來通可仕旨
享保五年十一月主水殿被仰渡に付前々之通割相極夫々被下置候

但右兩人川成改候節御折紙高と過不足者之場所有之候に付是又御法之通御折紙に相順指引相
極可申哉之旨相調候所御折紙高に順可相極旨被仰渡也

一古田島之儀諸士分之外へは一切不被下置御成來に而御座

但那賀郡桑野村御藏給知川成愈上改之節同村に而原士馬詰善兵衛拜領仕罷在候田島壹町壹反
余慶長の古田責出し其地床に相極古田之義は諸士分之外一切不被下御成來に而寶永七年主水
殿織部殿へ相伺右善兵衛拜領地壹町壹反余被召上替り原地を見立有來通願申出候様は是又右
田地先年地主相離れ散田に候之條善兵衛名田に可被下置今年御年貢上納御藏入に被仰付候
條此段を延之亟殿へ申達候様にと被仰聞に付寅の九月廿六日御藏奉行共延之亟殿へ罷越右之
段申上件之通被仰付也

御檢見人之時之事也

一小倉清藏儀拜領地十一町之内七町川成殘四町惡島故極逼迫仕候に付右七町川成分替地被下置候

様々正徳元年願上候所主水殿織部殿御聞届候條空地見立候而可申上旨御藏奉行共へ被仰渡候に付空地之義は先願次第に可被遣旨兼而被仰出候此段如何可有御座哉と相伺候所彼者は御用をも相勸申者之義故先願に無構無障空地に候へは可被遣旨被仰渡候に付願地之内障無場所之分被遣候猶又清兵衛死後伴理左衛門義清兵衛時分被下殘四町余可被下置旨願出候に付伊豆殿長門殿へ相伺候之處清兵衛同然願之空地先願有之候共障無之場所に候へは可被遣旨享保四年被仰渡也

一給知之内新道被仰付以指紙右物成相渡追而其村御給地に付替地被遣候節給人方へ御藏奉行申渡候事

但右替地目録給人方へ相渡申筋之義元祿拾壹年十二月美馬郡郡里村御檢地之節和泉殿を被相尋候に付前々御仕置所を相渡り申由申上候處愈上目録さへ御藏奉行を相渡義に候條此以後右様之新道替地被下候儀は御藏奉行共を可申渡旨被仰渡也

御藏奉行出座日御檢見人勤方共之事

其外品々

一御藏奉行一ヶ月六日四人共可罷出若指令候へは貳人迄罷出可相勸事

一右之外一ヶ月拾貳日貳人宛罷出諸吟味可相違若し御用重候は、四人とも罷出相談可仕事

但寶永七年目路見敷萱野空地御用御指加へ御藏處御用打込に相勸候に付主水殿織部殿へ相伺

一ヶ月前後貳拾日宛罷出申答に相極候所其後目路見敷萱野三手先御用御藏奉行之内兩人受持

引除相勸申様に被仰付に付有來る月は一ヶ月十六日御用多節は一ヶ月に貳拾二三日御藏奉行

不殘罷出相勸る也

一御支配被下節四人共罷出可相勸事

但元祿拾貳年主水殿へ相伺外御用に指支申節は御藏奉行貳判に而指紙出し申答に相極る也

右三ヶ條寛延九年江戸の豊前殿當に而主水殿を御書付來る五ヶ條之内也殘貳ヶ條は除く

一當御國御藏入分郡切に御檢見人請持候様に伺上相極候所元祿十四年和泉殿へ相伺御指留前々之通打込に被仰付也

一御檢見人壹ヶ月に三ヶ度宛御藏所へ罷出郷中之趣詮義仕候様に被仰付候日限之義は其方共可相

極旨元祿七年主水殿御書付來る

一青山分左衛門義御檢見加り被仰付候件之御用相勸申内は諸事小奉行格之通に相心得可申旨正徳元年主水殿被仰渡也

但宗門判觸口年頭御禮等之義御詮義之上只今迄之通於郡所仕答に相極る

一御檢見人類親之内私用に付他國へ罷越申義御藏奉行當之願紙面御藏所へ指出し右紙面に御藏奉行切紙相添御目附月番へ相達し可申旨御目附中被申聞に付右之通申談相極也

但先年は御目付當に仕願紙面御目付へ指出來候へ共享保三戌年件之通相極候

一右之外一切御檢見人諸願申上候義御藏奉行當之紙面指出し取次指上來候

但屋布頭之義は直に御普請奉行當に紙面上來り候

一御檢見人に品々被仰出有之節は御藏奉行之内壹人御呼出し被成於一座に被仰渡也

一御兩國村々御檢地御檢見其外品々改而御用御檢見人在々へ罷出申義時々御當人へ不申伺御藏奉行之面々了簡を以御檢見人組合村割相極申渡候事

一御檢見人村々へ罷越候節は御目附爰元にて被仰付候村數之外郡替り之場處へ罷越節は御藏所より直に申達候答之事

但兼而も大形は右之通に成來り居申候へ共猶又被仰付被下候様に正徳元年主水殿織部殿へ相伺御聞届件之通可仕旨被仰渡也

一剪紙に而申入候各會處にて御用方に仕申紙自今以後可被下旨被仰出候間可得其意旨承應四年豊前殿を申來る

一火事之節御藏所御手當御藏奉行並御山下に罷在御檢見人御藏手代とも罷出候事

一御檢見人毎月三日出座御日記仕出座不參記置候様に被仰付候事

右は元祿十三年和泉殿被仰旨にて御下仕置處を申來書付之内也

一寶永貳酉年二月三日於會所に御當人へ相伺候と此度阿淡御檢地爲座本箕浦久左衛門團平助罷越申候就夫御藏所手代林喜右衛門吉田亟右衛門伴林喜八郎吉田理左衛門義郷中御用爲見習召連申度候此段如何可被仰付候哉と元々迄申談候上相伺候處御聞届御藏奉行存寄之通可仕旨被仰渡也
一屹惣肝煎被仰付候御法事之節御帳御用之節は御當人へ申來候へ共御用人中迄被仰付候輕き御法事之節は御用人中御帳之義御藏所申來る答

但前々は右御帳御用之節は何時も御當人へ申來候へども元祿十二年主水殿を件之通被仰渡也
一就御用御藏奉行須本へ罷越砌撫養福良渡海之節有來る渡之御舟に乗申候然所御帳數冊持參仕り其上渡海指支申節は大勢一列御加扶持方御矢壁有之に付此後御關船被仰付被下度旨願上候所元祿十六年主水殿織部殿を願之通被仰付旨被仰渡也

一御藏御貯米無之に付不時御用之節御手支眼前に候責而三千石斗も御貯被成度旨御下仕置之面々迄存寄之趣書付相渡置候處元祿十二年和泉殿を被仰聞候は先年右存寄書御下仕置之面々迄相達

候通令披見面々存寄之段可然存候間向後二三千石翌年新米出來替り候迄御貯有様に可仕官被仰渡候事

但近年は御銀御手支に付元々御賣米の催促仕候故時々御當人方へ相伺御下知を以御賣米積登御貯米は少も無之翌年の御米をも御扶持方に振替申様に罷成候事

一村々車領之義願出候節は御代官御當人へ相願來候然處元祿五年御下仕置之面々へ申談候へは素御檢地仕節用水懸り並汲田之趣考御給地之矩相極申儀次所柄吟味之上御藏奉行了簡を以請免遣候同意に候故右之段不及相伺面々相極可申由申候所其段成程尤存候然上は御當人へ不及申伺候主水殿へ序を以可申上旨申向後右段不及伺に筈に相極候但車領入目之義は目路見奉行方へ申談る筈也

一御代官所御年貢紙代米極御當人御證文御藏所へ御出しに付書替證文御藏處御代官へ出し來候所近年は元々證文直に御代官へ出し來申候事

諸見分一卷並雜錄

麥見分

(德島市 森敬介氏所藏)

指出案文

田島何拾何町何反

何郡

一高何百何拾石

何村

古田分

請夏秋納舛何割成

内麥何拾何石

請に而何分何厘

秋請何割何分何厘

高

内何拾町

田分

辻斗代何石何斗

辻合毛

此内何反

水田

同何町

麥地難成分

同何町

麥地

此麥何拾何石

合毛

譜に而

秋譜

高

同何拾町

辻斗代

辻合毛

此内何反

麥地難成分

合毛

譜に而

秋譜

右町切

一田畠何町 西は道切東は溝北は何の見通南は何々切

内何町

田分

此内何反

水田

同何反

麥地難成分

同何町

麥地

同何町

畠分

此内何反

麥地難成分

同何町

麥地

右之通帳面相調片面に二行藏町數之儀里分は二三町を限り可申候山分は見渡見分成交機町數少く
切可申候町切境目之儀は道溝又は岸堀等何分境目相分申場處切可申候尤請切傍示切に懷に而分
可申候但新開は不及町切に候小指出に可仕候 以上

麥見分仕立帳

年号月日

上書

何郡村々麥見分仕立帳

一列名

田畠何拾町

何郡

一高何百何拾石

何村

古田分

請夏秋納升何割成

内麥何拾石

高

同何町何反

田分

辻斗代

辻合毛

此内何反

同何町

麥地

水田

此麥何拾石

請に而何分何厘

秋請何割何分何厘

合毛何合何勺

見分麥辻合毛何合何勺何才

指引何石何勺何才

乘

高

同何町何反

畠分

辻斗代

辻合毛

此麥何拾何石

請に而何分何厘

秋請何割何分何厘

合毛何合何勺何才

見分麥辻合毛何合何勺何才

指引何合何勺何才 乘

田畠一所に見る時は仕立左之通

一田畠何拾何町

何郡

何村

何分

請夏秋納舛何割成

内麥何拾石

秋請何割何分何厘

麥辻合毛何合何勺

見分辻合何合何勺

指引何合何勺

乘

高

内何町何反

田分

辻斗代

辻合毛

高

同何町何反

畠分

辻斗代

辻合毛

仕上書物之事

一當村御藏分當夏立毛御見分爲御用御越被遊候に付指出帳面町切立毛付共委細に仕上地床之義は
不及申上御藏給地庄境目に至迄少も無相違御地引仕候万一聊に而も偽ケ間敷儀仕置追而相願申
候は私共如何様共可被仰付候依而爲後日仕上書物如件

年号 月 日

庄 五
屋 人 組

一 列 當

一麥上ヶ下ヶ挾量算用

何郡何村

一高何百何拾石

何傍示

請夏秋納升何割成

內麥何拾石

內何石何斗

用捨

但本合毛何合何勺何才之內

何合何勺何才 用捨

何合何勺何才 宥

殘何拾何石

此後定麥

一同何百何拾石

何傍示

請夏秋納舛何割成

內麥何石何斗

增米何石何斗

合何拾何石

此後定麥

但本合毛何合何勺何才に何合何才増何合何勺何才之宥

一御藏所へ仕出麥上ヶ下ヶ書付帳面又は書付に而も

一高何百何拾石

何郡

何村

何傍示

請夏秋納舛何割成

內麥何拾何石

內何石何斗

今年々用捨

殘而何拾何石

此後定麥

一高何石何斗

同村

新開

請夏秋納舛何割成

內麥何石

今年々不殘用捨此後麥無

一高何百何拾石

同村

何傍示

請夏秋納舛何割成

內麥何石

增米何石何斗

合何拾何石

麥御檢見仕立

高何百何拾石

一田畠何拾何町

請夏秋納升何割成

定麥何拾石

內

何町何反

何反何畝

來夏分増

此後定麥

何郡

何村

何傍示

水田

無毛

以上

高

何町何反

此麥何拾石

上り麥何石何斗

辻 何町何反

此麥何拾何石

上り麥何石何斗

何町何反

腰張麥何拾何石何斗

乘麥何石何斗

但何割何分何厘

合何拾何石何斗

上り麥何拾石

三口上り麥合何拾石

屋敷

刈跡

指引下り麥何石何斗

請に而何分何厘

仕上御請狀之事

一高何百何拾石

何郡
何村
何傍示

當麥何拾何石何斗

一同何拾何石

同村
何々何年御帳

當夏何石何斗何升

一田畠何町何反

同村
御假御檢地

當麥何石何斗

一畠何反

同村
御竿不當地

當麥何斗何升何合

右は當夏立毛何々に而損亡仕御願申上爲御檢見御越被遊御檢地御帳之通無相違腰帳仕苅跡等夫々委細に仕分け有毛之分合毛付並町分け等委細に仕上候然所御廻御有体に被仰付作人共一統得心之上御請仕處相違無御座候然上は御年貢之儀御代官所様を被仰付次第も無滯上納可仕候勿論地床引違不申庄境自有体に御地引仕御檢見奉請候此度之御用に付万一偽々間敷儀仕置追而相顯候は私共如何様とも可被仰候仍而爲後日御請狀如件

年号月日

一列當

御藏所へ仕出

年号月日

上書

何郡村々麥御檢見目錄

一列名

一高何百何拾石

何郡何村

何傍示

定麥何拾何石何斗

内何石何斗

御檢見下

請に而何分何厘

一同何拾何石

同村

何之何年御帳

定麥何石何斗

内何斗何升

御檢見下

請に而何分何厘

一田畠何町何反

同村

仮御檢地

米何石

麥何石何斗

御檢見下

一畠何反

同村

竿不當

米何斗

麥何斗何升

内何斗何升

御檢見下

月 日

一御藏所へ指出都書

覺

何郡

一高何千何百石

村數何ヶ村

定麥何百何拾石

内何拾石何斗

御檢見下り麥

月 日

辻斗代壹石五斗

以上

以上

一列名

辻合毛七合

見分辻合九合五勺

指引二合五勺

乗

三分の免

辻合毛六合四勺

但三合一勺の宥

秋立毛見分指出帳案文

高二百石

一田畠何拾何町

古田

請夏秋納升何割成

内麥何拾何石

請に而何分何厘

秋請何割何分何厘

高

内何拾何町

田分

此内何反

畠田成

此麥何拾何石

請に而

秋請

辻斗代

辻合毛

淡州は夫米合ども

高

同何拾何町

畠畠分

内何反

田畠成

此麥何拾石

請に而

秋請

内何反

麥粟蒔跡

大豆蒔跡

同何反

辻斗代

辻合毛

田分町切

一何町 何々何之道迄四方見渡して付る

内何反 早稻

一何町 西は何々東道切北何切南は溝切

内何反 早稻

右之通帳面相調町切之儀片面に二行宛町敷之義里分は二三町を限り可申候山分棚田之場處は五七反程に而も見渡見分能様尤町切境目之儀は道溝又は岸堀等何分境目相分り申場處々切可申候尤傍示切請切に帳面懷に而分可申候但新開分は町切に不及候早稻分は小指出帳相調指出可申候早稻分は先達而遂見分可申候 以上
御檢地下見分案文
高何百何拾石

一田島何拾何町

古田新開共

平請夏秋納并何割成

内麥何拾石

高

内何拾何町

田分

但島田成とも

島田成

此麥何拾何石

請に而

秋請

辻斗代

辻合毛

高

同何拾町

島分

但島田成とも

田島成

内何反

此麥何拾何石

請に而

秋請

辻斗代

辻合毛

田分町切

一番

一何町 西は何々何迄東は道切北は溝切南は何々見通

二番

一何町 西は何々東は何々北は 南は

三番

一何町 同斷

右之通帳面に相調町切之儀片面に二行宛町數之儀里分は二三町を限り可申候山分棚田之場所は五七反程に而も見渡見分成能様に尤町切境目之儀は道溝又は岸堀等何分境目相分り申場處を切可申候
一早稻分は小指田帳相調指出可申候先遠て被遂見分候
以上

秋立毛見分仕立

年号月日

上書

何郡村々當秋立毛見分仕立帳

一田島何拾何町

何郡何村

一列名

高何斗

内何畝 當春溝床願出有之分

高

殘而何拾何町

請夏秋納舛何割成

本請何割成之内何分免

内麥何拾何石

内何升何合 當春溝床願之懸麥

殘而何拾何石何斗

高

内何拾何町

田分

畠田成とも

内何反何畝

畠田成

此米何石

京舛

請に而何分何厘何毛

此麥何拾何石

請に而何分何厘

秋請何割何分何厘

辻斗代

辻合毛

但夫米畠田成増米合共

見分辻合毛

乘

指引何合何勺何才

同何町何反

畠分

此麥何拾何石

請に而

秋請

辻斗代

夫米合とも

辻合毛 秋見分上げ下げ挾量算用書

一高何百何拾石

何郡何村

何分

田分秋請何割何分何厘

但田成増夫米請ども

辻斗代

辻合毛

見分辻合毛

指引何合何勺

乘

何分の免

辻合何合何勺何才

但何合何勺之宥

一高何百何拾石

同郡何村

何分

田分秋請何割何分何厘

辻斗代

辻合毛

見分辻合毛

指引何合何勺

乘

何分上げ

辻合何合何勺

但何合何勺之宥

一高何百何拾石

何村

何分

田分秋請何割何分

辻斗代

辻合毛

指引何合何勺

乘

何分免遣但此免懐に而は下げ分高へ壹つ何分免遣相殘高へ何分何厘何毛免遣尤川成御檢見等

之節は辻請之筈

内何拾何石

下け分

請何割何分

麥無

辻斗代

辻合毛

見分辻合毛

指引何合何勺

乘

壹割何分の免

辻合毛何合何勺

但何合何勺の宥

同何百何拾石

上げ分

田分秋請何割何分

辻斗代

辻合毛

見分辻合毛

指引何合何勺

乘

何分何厘何勺之免

辻合何合何勺

但何合何勺之宥

仕上る書物之事

當村御藏分當秋立毛御見分爲御用御越被遊候に付指出帳面町切立毛付共委細に仕上地床之義は不
及申上御藏御給知庄境目に至迄少も無相違御地引仕候万一聊に而も偽ケ間敷義仕置追て相顯申候
へは私共如何様共可被仰付候仍而爲後日仕上書物如件

年 号 月 日

一 列 當

御檢地下見分仕立

高何百何拾石

何郡

一田島何拾何町

何村

庄 屋 五 人 組

古田新開字不當

平請夏秋納升何分何厘

内麥何拾何石何斗

高

内何拾町

田成

内何反

畠田成

此増何石何斗

請

此麥何拾何石

請に而

秋請

辻斗代

辻合毛

但畠田成増米合共

見分辻合毛

指引何合何勺

高

同何町何反

畠分

此麥何拾何石

請に而

秋請

辻斗代

辻合毛

右町切

本村傍示

一番

一何町何反 西は何々何迄東は道切北は溝切南は山切

辻壹升二合 上毛一升四合下毛一升

字

上田何反 當作何助何右衛門前一二

下田何畝 當作何右衛門何助前 九

何右衛門家前々東何迄宜上毛爰に有西何の木々北何左衛門家の何左衛門前途は少惡布候

外に畠何反何畝

此畠分 惣而上處甲乙無

其外心覺の品委細書付置申儀は第一肝要之事

二番

一何町何反 東 西南 北

辻一三 上毛一升二合中毛一下毛一

字

上田五畝 當作何助何右衛門前一二

上々田一反 當作何右衛門何助前 一

何右衛門家の南々上は段之通り宜同所下昇みの方少劣る西何の谷間惡布候下品此所に限る

外に畠何反何畝

此畠山分に而惡布候

高合何百何拾石

田合何町何反

畠分何町何反

何傍示

三番

一何町何反 西 東北 南

辻一升何合 上毛下毛

字

中田八畝 當作何兵衛何右衛門前 一

北池の上惡布堤の溝々南へよし昇之へ至惡布候

外に畠何町何反

都而多分中の上位

四番

一何町何反

西 東 北 南

辻

上毛中毛下毛

字

下田三畝 當作何助何左衛門蒞一

何々

々々

外に畠何町何反

何々々々

高合

田合何町何反

畠分何町何反

御檢見一卷

早稻見分仕立

年号月日

上書

何那村々腰張御檢見早稻分仕立帳

請何割何分本高何百何拾石之内

一田數一町三反三步

内

九反七畝二十四步

畝跡

八反二畝九步

腰張畝十七石八斗二升一合

乘畝二石六斗七升三合

三口 畝合五十二石七斗六升八合

但割一割五分

一 列 名

何 那 何 村

早 稻 分

米に而十三石一斗九升二合 納升

京舛に而十五石八斗三升

請何割何分右本高之内

一畝數八畝十二步

同村

畠田成之内早稻分

但古田新開高一石五斗二升一合

畠田成増米五斗九合出す内

内

壹 二畝

蒨跡

粃六斗六升

六畝十二步

有毛

腰張粃一石一斗四升

乘粃一斗七升一合

但割一割五分

三口 粃合一石九斗七升一合

米に而四斗九升三合 納升

京舛に而五斗九升一合

一 早稻分檢見相濟候迄早稻指出帳の奥に張紙致し置追而晚稻之節外手崎々遂御檢見候而し紛も無之様にいたし置答仕様左之通

張紙懸印

請四割何分本高何百何拾石之内

一 田數一町八反三步 本村分早稻

此上り米十五石八斗三升 京舛

請何割何分 右本高之内

一 畝數八畝十二步

同所

畠田成之内早稻分

但古田新開高一石五斗二升一合

畠田成増五斗九合 出す内

此上り米五斗九升一合 京舛

請何割何分本高何百何十石之内

一田數十一町八反五畝 何分早稻

此上り米七十二石一升 京舛

外に畠數六畝九步 田成

今年雨繁く田作仕候趣

此分無毛有毛共春請之筈

請何割本高何百何十石之内

一田數四町七畝二十一步 何分早稻分

此上り米二十六石五斗四升 京舛

右は此度見分之上相極候に付指出帳何冊當分在所に指置候追て晚毛檢見之節指出筈右指出帳之内に此度指除晚毛之分は印形加へ置候 以上

何の何月日

早稻分檢見之節書物

仕上書物之事

御請何割何分本高何百石之内

一田數一町八反三步 何村本村分早稻

此上り米十五石八斗三升 京舛

御請何割何分右本高之内

一畠數八畝十二步 同村本村分

早稻分畠田成之内

此上り米五斗九升一合 同舛

御請何割何分本高何百何拾石之内

一田數十一町八反五畝 同村何分早稻

此上り米七十二石一升 同舛

右は立毛虫刺に罷成御請に難合御拜詔申上爲御見分御越被遊候に付御檢地御帳之通無相違早稻分腰張合毛付仕上御明白に御廻し被仰付私共は不及申上に作人共一統得心之上御請仕所實正に御座候御年貢之儀は御代官所様方被仰付次第少も無滯上納可仕候万一此度之御用に付不埒々間敷義仕置後日に相顯候へは如何様共可被仰付候仍而如件

年 号 月 日

一 列 當

庄屋五人組

1060

晚毛之節仕立

一田數十八町二反七畝

何村本村分

内

一町八反三畝

早稻先達而改濟

米十三石一斗九升二合

六町二反四畝

中稻晚稻無

何合二反五畝

中稻蒔跡

一 粃五石二斗九升二合

二町一反

腰張粃二十三石九斗一升八合

内七石九斗七升二合

減

但三割三分三厘

殘而十五石九斗四升六合

德粃三斗三升

乘粃九斗九升

但三十割

七町八反七畝

晚稻合付德付

腰張粃三十七石九斗九升八合

乘粃一石九斗

但五分

高二斗四升七合

二十七步

居屋布

秋請何割何分何厘に而

米一斗三合

秋請何割何分何厘に而

高九石八斗三升四合

一畠數一町六畝三步

内

高八石七斗七升三合

1061

九反六畝十八步

米三石五斗八升八合

秋請何割何分何厘に而

高一石六升一合

九畝十五步

田成

内八畝十二步

早稻先達て濟

米四斗九升三合

同一畝三步

中稻合付

腰張粃一斗六升五合

内五升二合

減

但四分廻し同斷

殘而一斗一升三合

惣粃合六十二石五斗

米に而十五石六斗四升二合

高二百六十二石何升何合

田畠合十九町三反三畝十五步

惣米合三十三石一升八合

納舛

内二斗七升三合

畠田成増米京舛三斗二升八合之内に引

殘而三十二石七斗四升五合

請に而一割二分四厘九毛

麥請一厘二毛

夏秋合一割二分六厘七毛

春請何割何分

指引何割何分何厘

下る

下り米何拾何石何斗何升

京舛

上毛高相加里候仕立

高七十一石一斗三升四合

一田畠八町一反五畝

何村何分

内

六町五反二畝二十一步 無

粃二十九石二斗一升八合

二反三畝

腰張粃九斗四升六合

合付

但増減無

二口粃合三十石一斗五升九合

米に而七石五斗四升

納舛

高四石四斗一升六合

一畠一町四畝十五步

但 切畑とも

外に三石二斗三升二合

上毛高

二口 高合七石六斗四升八合

米三石五斗九升五合

納舛

但春請四割何分に而

高八十三石七斗八升二合

上毛高共

田畠合九町一反

惣米合十一石一斗三升

納升

請に而一割三分三厘

春請四割七分

麥無

指引三割三分七厘

下る

下り米三十三石八斗八升一合 京升

畠在所仕立

高何百何拾石

一田數何町何反

何村何分

内

高

何反何畝 居屋布又は畠作並堤床池床共

米何石何斗

納升

秋請何割何分に而

一升何町何反

蒨跡

粃何十何石

何町何反

腰張粃何十何石

乘粃何石何斗

割何割何分

三日粃合何百何十石

米に而何十何石

高何百何拾石

一畠數何十何町

内

何反

高何石何斗

何反何畝

米何石何斗

合付

納升

無

居屋敷

納升

秋請何割何分に而

辻百五十目反

何町何反

上り銀何貫何百目

米に而何十何石

但右何十何匁に而

藍辻百三十目反

何町何反

大豆辻四合

上り銀何貫何百目

米に而何十何石

上り大豆何十何石

稗辻一升

藍

藍大豆入子

但石右同斷

但米右同斷大豆何十何匁に而

何町何反

稗大豆入子

大豆辻四合

上り稗何十何石

米に而何石何斗

但米右同斷稗何十何匁に而

上り大豆何十何石

米に而何十何石

但米右同斷大豆何十何匁に而

辻六合何町何反

大豆

上り大豆何十何石

米に而何十何石

但米大豆直段右同斷に而

辻一升三合何町何反

稗

上り稗何十何石

米に而何石何斗

但米右同斷稗何十何匁に而

辻三合五勺何町何反

小豆

上り小豆何石何斗

米に而何石何斗何升

但米右同斷小豆何十何匁に而

八口米合何十何石

京升

納升に而何十何石

高何百何十石

田畠合何十何町何反

惣米合何十何石

納升

請に而何割何分何厘

麥請何分何厘

夏秋合何割何分何厘

春請何割何分

指引何分何厘

下る

下り米何十何石

京升

仕上御請狀之事

一高何百何十石 何村何分

當御請夏秋納升何割何分何厘

一高何十何石 同村何分

當立毛無

右者當村立毛損亡に付御檢見奉願上候所右爲御用御越被遊腰張帳面之儀御檢地御帳之通無相違合毛付並畝分等委細に仕上候然所御廻廻御有体に被仰付作人共一統得心之上御請仕所相違無御座候然上は御年貢之儀御代官所様々被仰付次第少も無滯上納可仕候勿論地床引違不申庄境目有体に御地引仕御檢見奉請候万一此度之御用に付偽々間敷義仕置追而相顯候は私共如何様共可被仰付候仍而爲後日御請狀差上申所如件

年 号 月 日

庄 屋 五 人 組

一 列 當

御檢見之節晚毛分積りを以相極候節書物仕上御請証文之事

一高何百何十石 何村何分

當御請夏秋納升何分何厘

一高何十何石 同村何分

當御請夏秋納升何割何分何厘

一高何石何斗 同村新開

當立毛無

右は當秋立毛虫刺に而損亡仕御願申上爲御見分御越被遊候に付御檢地御帳之通無相違腰張仕蒞跡等夫々委細に仕分け有毛之分合毛付仕上け候所御明白に御廻被仰付私共義は不及申上作人共一統得心之上件之通御請仕所實正に御座候御年貢之儀は御代官所様々被仰付次第少も無滯上納可仕候尤早稻中稻之分は兩度御見分被仰付候晚毛之儀今以得と然不仕候へ共大形は無毛に罷成聊之有毛に而御座候故度々御見分奉請義百姓ごも迷惑に奉存候一所に御見分被仰付被下候へは追々勝手次第列取申度趣奉願候所彼是御殿之上御見分被仰付雖有奉存候然上は万一此已後如何様之變御座候而立毛相痛候共全御願々間敷義申上間敷候且右高之内に有之畠田成増米之分御見付米に而御指引相殘分御請に御結被遊段御算用書之御趣奉承知候然上は右増御年貢之分は有來員數之通上納可仕候不及申上此度之御用に付不埒々間敷義仕置追而相顯候は私共如何様共可被仰付候仍而爲後日如件

年号 月 日

一 列 當

一〇七二
庄屋五人組

一廻し帳

上書 年号 月 日

何郡村々御檢見廻帳

一 列 名

何村何傍示

何月何日

中上田一反六畝六步

何 右 衛 門

内六畝

腰張何合

廻何合何勺

指引何合何勺

乘

割に而何割何歩

同村何分

字三

上々田一畝十八步

何 右 衛 門

腰張何合何勺

廻何合何勺

字六

上田八畝

何 助

腰張何合

廻何合何勺

腰張何合何勺

廻何合何勺

指引何合何勺

乘

割に而何割何分何厘

右廻し之處合せ之所指引何合何勺之處へ庄屋印形仕せ候

上書 年月日

何郡村々御檢見目錄

| | | | | |
|----------|------|---|---|---|
| 一 高何百何十石 | 何郡何村 | 一 | 列 | 名 |
| | 何 | 傍 | | 示 |

當請夏秋納升何割何分

春請何割何分

指引何分何厘

下る

下り米何石何斗

京升

一 高何十何石

何村何分

當請無

春請何割成

物成何十何石

京升

一 田畠何町何反

同村 竿不當

當成何石何斗

元積米何石何斗何升

指引下り米何斗何升

京升

以上

一 御檢見之節刈跡之義古來々上毛之御作法に何れも動來候然所近頃組合談之上春請合に二割増或は一合五勺或は五勺増又は有來上毛の極區々之様に承候此段何れへ成共詮義之上相片付動方同様に有御座度候飯合は隣村兩崎に而相動申候節一崎は春請合に二割増一崎は五勺増又は今年五勺増に相極右列之内一人明年も其村々御檢見に罷越候節組合多分之存寄に而一合五勺と相極時々相違之申付其人に成下の存手前も迷惑に候へ共此段は指置第一御筋に懸候而も如何敷御法式も不相立様下民存入歸服不仕候へは自然と不治道理哉と被存候尤上毛之定逆も人別少々之高下は可有之候へ共是は上中下の矩苜跡多少之心持に而飯合同人累年改に罷越候而も其年之苜跡に應上毛之位少々宛は違申年も可有御座候何分春請合に何合増之違とは其品相違申様に被存候一春請合に何割増又は何合増と有之候へは上段下段共苜跡平等之通合に而道理宜と相片付方於申には御藏奉行中へも得と申談候上相調不申候而は難相動筋と被存候子細は苜跡上毛と申は御藏處御記録にも致顯然古來々動來之御作法他所並郷中末々に至迄も能存知之儀御所務方四分六分

一 五合増等同斷之御大法と被存候へは同役迄申談に而春請合に何割増何合増と申名目は難相顯様に被存候隨而蒞跡春請合に何合増と候へは平等之道理には有之候へども此後右之通一統於相勤には一升四五合共有之合毛は悉刈取可申候末々の矩逆も春請合相考三合とも餘り候立毛は皆々刈取可申候勿論五合増等之疋に候へは多分は刈跡に成可申候且御檢見村も自然と多罷成可申候何分下之上も出來畢竟不治様にも相成可申哉刈跡上毛と有之候へは下段矩迷惑之筋に御座候とも誠に法を以理を破り理を以不破法と申候へは刈跡合甲乙有之儀は勿論不顯成來之通相勤申段可然哉と於私に被存候都而法令は是に不限大既等能叶候へとも微細之所迄行届至極仕と申は稀成方に可有御座候既に於御地方にも田地扱上援檢見不被仰付段は御正道之御筋とは難被申候へ共廣大之儀は無左候而は難治故大綱之御法と存候刈跡上毛之御極も心は其品同様之御趣意と被存候

一 淡路御國分或は南方筋其外田所の在處御檢見之節其傍示に有之聊之畠分是以見付申筈には候へども居屋布等春請物引候而は彌聊之事故前々々一統春請にいたし勤來候近頃人にも春請合に五勺増に相極候方も有之様に承り候其品に見付申は格別何勺増と相極申儀節々叶申積目當も無之候へは勤來之通春請も可然可有御座哉是以人前區々之勤方前段申演候通被存候右彼は何分讚談

之上何れに成ごも相片着同役一統勤方同様には有御座度爲御相談存志相記申候 以上

七月 日

伊 月 高 助

右書付實曆八寅年七月二日於役所同役へ指出彼是相談之上同八月十四日役所に而右書付存々之通此後一統古來々之勤來に二ヶ條共相勤筈

場之趣に而矩心得有之事

一 上處地面之内に立毛腐り實成惡布地癖之様に有之此地味必上所に有之儀に而候尤多有之義に而は無之候一枚之内にも有之候

一 一ふけにも上所有之候然共麥地之上所に仕候而は作人意相劣り申氣味に相成候故中古以來は一矩又は二矩了簡を以落し申候古來はふけに右之差別なく上々の矩有之候尤ふけ分迄傍示切分候へは只今に而も上々可有之事田村彌左衛門矩取那賀郡宮倉村馬糞場を左へ參も道用水添之所道縁は上々之由近年は出來劣り申由勝浦郡田野村屋布廻り之後ろ上所之由上所にはやけ申事有之地勢強故也

一 淡州下郡は大略田方御國分同斷上郡は田方は稻毛宜上所場難相定候大格打開候場は引上り候所を劣り申候

一御園分山分は打開里に相近所宜引上山に至候へは劣申候第一は日請次第に候故方角請之趣を
知申事心得也

一矩以レ理爲レ本目利ヲ相加候事

但理とは場之事目利を本に不相立候事

一御園高方矩に之了簡取合考可有之事

夫米合毛

収納升六分

四分

七五之起り

三六之起

七五之割

七五之懸

拾六割

拾五の懸

二十五之割

二五之懸

六之法

十貳五

二十五乘

上り米

小見付

収廻し

腰張檢見

町切

割地

田畠成

川成高

間高

法

秋合毛

壹器算用

粟稗唐黍胡摩在胡摩大豆小豆木綿煙草藍圓豆麥芋小黍霜稗空豆穉芥子圓豆蕎麥

麥合間米

藍木綿煙草大豆粟小豆大角豆胡摩稗芋蕎麥大根菜在胡摩黍藷

斗代知法

反敷を以高を割

但一畝に不足分は三を以割或は一畝十五歩と有時は一畝五として高を割也一切反を以算用之
時は一畝に不足之分は三を以割亦歩を用算用之時は反畝之分に三を懸歩に直す

辻斗代知法

惣町役を以惣高を割

高知法

反敷に斗代を懸

物成を知法

高に請を懸納升之物成と知

但右納升之物成に十二を懸京升之物成と知

請知法

京升之物成十二を以割納升之物成と知夫を高を以割請と成

秋合毛知法

請夏秋納升何割成之内に而麥請引秋請に而斗代に懸四を懸三に而割

亦一法斗代秋請を懸夫を七五に而割但水田之合毛を見付は麥請可引様無之候

高を知法

京升之物成十二に而割請を以割

麥三つ折

三つ折之米に直時は三を以割京升之米に成夫を十二に而割納升の米と知

但麥を直に納升之米に直時三六を以割亦は六に而二度割も同斷

麥請知法

定麥を三六に而割夫を高に而割

但定麥を高に而割高石に何斗懸と成夫を三六に而割

定麥を知法

高に麥請を懸三六を懸定麥と知

麥辻合知法

内麥を六に而割惣町の歩數に而割麥合一升以上は三合五勺宥以下は三合四合と見立三合引一合に而上り六を取三を掛一斗八升と成

但内麥を六に而割は諸口に成表裏にすれば其元を知一碁故也

内麥を町反に而割一反に何程と見夫を三に而割合毛と知

亦方斗代に麥懸を懸六に而割は諸口の麥と成夫を三に而割合毛と知

内麥を拾八に而割辻合と成

麥合に十八を懸上り麥と成

辻斗代麥請を懸三六を懸十八に而除時は何合毛と成

六分の麥請之時合毛何程

麥合毛一合二勺是を知法六分を六に而割三六を懸三に而割

糶を米に直す事

糶を米に直は先規を五合すりの御大法也

左候へは糶一石は米五斗也

請を知法

辻合に七五を懸辻斗代に而割請と成

辻合毛知法

諸口見立糶を惣歩に而割辻合と成諸口見立糶を四に而割納升の米に成

京升之事

諸口の糶を三を懸京升物成と成

辻合毛

京升之米を三に而割諸口の糶に成惣歩に而割辻合と成

糶を京升の米夫米一所に見る目安之事

三一八を用

發くは今糶一石に三を懸れば京升之米三斗に成此三斗に夫米六斗を懸れば一升八合と成三斗に一升八合に成故也

糶四分之事

糶何十石に而も貳を懸れば京升四分之米と成

斗代見様之事

辻合一升五合五勺の時三合之宥を引残りに七五を懸九三七五と成四つ請に而除二石三斗四升三合七勺五才と成

淡路御國夫米合毛之事

或は請四つ成にして六を懸れば夫米請二分四厘と成夫を斗代に懸七五に而割夫米合毛本合毛一所に見時は本請四つ成に夫米請二分四厘加へ四割二分四厘として夫を斗代に懸七五に而割は本合夫米合一都りに成

但請は何割成に而も六を懸れば其數夫米請と成
糶に而納升六分上り之事

粃を四にて割

粃は各別其外之諸立毛は町反に合毛を懸れば諸口之正味に成夫に六を懸れば六分之上に成也

四分之員數之事

六分之上りを十五に而割四分と成

但諸口之員數相知候へは夫に四を懸知也

七五之起

術に一升毛と見立三百歩を懸粃三石と成五合磨に而一石五斗六を懸九斗十二に而割納升七斗五升と成

三六之起

麥は三つ折 常法

三斗六升納升一斗と成米に三六を懸れば内麥と成

三六之割は六二に而二度割

四を懸三に而割は七五之割と成

四に而割三を懸れば七五之懸と成

拾六之割は四に而二度割

拾五之割は二を懸三に而割

二五之割は四を懸る

同懸は四に而割

六の法

麥一石を三升替三に而割三斗三升三合三勺と成右麥二升替時は二に而割米五斗と成其五斗之内三斗三升三合三勺引時殘る一斗六升六合六勺有夫を矩に而上に置右一石の麥を割は六と成故也

十二五之事

十二五之懸は

八に而除

二十五の乘は四に而除

上米之事

合毛を四に而割三を懸納升何石知

但七五を懸る同法

小見付之事

小見付之節は其地一株切に合毛相極則差出帳之株々に照合に而合毛を記置一株切に扱をもち惣辻之扱何拾石と合米いたし候尤稻之外一切之諸立毛其株々の合毛を以諸口の升目を極め畢竟惣辻合に而六分之上分何程と相極也

扱廻し増減割を知法

本合三株に而二升五合之時廻し扱合三升有之時は本合を差引し残り五合を本合二升五合に而割時は二割と知減割も同斷

腰張檢見之事

腰張檢見は廻し之上乗り減り之割を極め惣合之扱に乗りを懸本扱乗扱合而米に直し尤減し候節は本扱之内に而減扱を引相殘扱を米に直す

町切見様之事

一町之時は二反三合毛二三六斗三反五合毛三五一石五斗五反二合毛二五一石右圍点之分乗合三合一勺の辻と成又は二町或は一町五反の如きは乗合惣町に而割秋毛も同斷

割地之事

或は一反之田地之内四畝九步北之方に而給知へ割當之時北之方を間敷を打十五間有にして田畝五歩を歩に直し百二十九歩を十五間を以割は八間六と成北の方八間六南へ寄境を立也尤是は眞四角成田地之割方也地形趣に方時々勘弁有之也然とも全体右之法を本に相立勘弁有之也

田畠成之事

田反畝に畠の斗代を懸と高と成右之高に請を懸れば納升の物成と成此物成を田高に而割は請と成則下り請見へる右帳奥に左之通り奥書する右は無水に付此度見分之上田畠成に極置物也

御藏高二拾石川成

給地川成四十石 先の畝無時

兩方之高合上に置御藏高二十石を割は三三三と成是を一反三斗代と見る給地も兩方合六十石を以給地の四十石を割は六とと成時川成愈上り竿を入候へは四百五十歩有夫を一反の斗代三ととを懸れば何畝と成給知へも六ととを四百五十歩に懸る

間高見る事

或は先請四割當請三割五分檢地之時先請之内當請引残り五分先高へ懸當請に而割は間高と成亦先物成何十石に而も當請に而割れば高何十石と見る其内先高引残り間高と見る

法

米一器六分二千五百粒
粳一器四方粒

秋分毛

一坪二百疇。一間十四通之植本方間に一尺坪四十二に半有
方尺に積中五疇。其穂を握り譬は四勺と知一升六合毛

阿波御國

植本從十六七至十二三

淡路御國

植本方間百疇程

目黒暇越し水潜り糯は一割も徐有先て彌六早稻助次郎次郎五郎毛糯は見分は一割も餘有る

粟

大は百五拾穂に而一器に四百程

稗

壹反自三石五六石及

唐黍

壹穂二勺及貳勺五才

胡摩

白上々壹石黒は少餘有

荏胡摩

上々三石及壹石五斗

大豆

一器七千粒

方間四畦一溝八隣に而豆殼三十中豆二粒豆殼一隣に三十に而九百殼千八百粒七に而割二合五勺
但于目拾粒に而内三粒はつみ七粒は一陪減と而一器に六合五勺と成五割減

小豆

一器二万粒一殼四五粒も有

木綿

桃綿目三分

坪三溝半十本通中に而桃八割と見て二百八桃也三を懸八十四は一反に二十五貫二百目二に而割百二十六斤

但一斤二百目法

煙草

一枚八分五分迄坪十三本本に十三枚百六十九枚反に五万七千枚五を懸二十五貫三百五十目十六に而割百五十八斤余 一斤百六十目之法

藍

上葉百枚八分程有反上々五十貫以下段々直段高下所々に而相違有

圓豆麥

七八合以下

芋

坪十二隣程有之大略三升の一升迄

小黍

上々二石五斗以下

霜稗

大槩出來三石四分四五石迄

空豆

一器二千粒

種

田は一石五斗以下

畠は一石一斗以下

芥子

上々三石以下段々有之

圓豆

二石位以下段々

蕎麥

三石以下段々中一石七八斗

麥合

一器五万粒坪三溝半也一溝に而半間何十本と見一穗一通中は十粒尤多少考へし輪六通り也十に六を懸六十或は半間に五十本一間百本に而六千粒也三溝半に六を懸二万千と成五に而割四合二勺と知

赤麥大麥古來割替なし

島米は一割引

芋稗五升は米一升の割替

大角豆は 五割

大豆は 六割

間米之事

藍

反に付三拾五貫

但二十貫と五拾貫迄も有之

相場二貫五百替

麥二升替と三升替と間米を見る時は麥何十石に而も六に而割間米見る

但七八百と三貫四貫位迄も有之

三十五貫之積は藍一坪に付

代百拾本の六分六厘

代百目

米に而一石四斗八合

石に七拾一わ替

粃に而二石八斗一升六合

此合九合三勺八才

右合積を以地盤へ引比斗代諸極る

檢見等之時積合同斷

木 綿

反に付百二十斤の積

但二十四貫目也一坪に付八十目之積

於阿波郡水田村田作之綿桃三つ取寄懸候所二つは五分宛一つは四分木一本桃五つ宛一坪に三うね
一畹に八本宛三八二十四分

此綿目四十八わ宛反に付十四貫四百目綿七十斤

尤百斤ふきにして一步に六十六わ六分五厘

但二百目斤斤に付代

煙 草

段に付百五十斤

秤目二十四貫目

但一坪に付八十目

百六十目斤斤に付代

大 豆

一石五斗一坪に付五合

於三好郡芝生村大豆一坪に四うね半懸りを一畹引と穀をさり候處一合四勺有之尤中位之毛柄に見
へ候千目一俵五割位と見へ候二五に而除五勺六才と成

四うね半に懸二合五勺二才

五勺六才の小大豆五百二粒有之

粟

二石一斗一坪に七合八合か一二合迄段有之

小 豆

一石二斗一坪に四合か一二合迄有之

大概は七八斗位

大 角 豆

一石二斗一坪に四合か右同斷

大概は七八斗位

胡 摩

一石五升一坪に三合五勺

稗

九石一坪に一升か二升三升五合迄も段々有

芋

九石一坪に一升五合ハ三四升迄段々有之

蕎麥

一石五斗一坪に二三合ハ五合位多は歸毛に而有之故軽く積來候一坪に四五合と申積は無之候へども合代は右之通有之候

大根菜

大根一坪に百本之積り菜は雜子の義に候へは軽く多は菜其外雜子類は春請たるへし

荏胡摩

三合五勺大概宜方一石ハ石二三斗も有之水甚嫌之由種分ハは下直

黍

一坪に七合五勺二石以下甲乙段々有

藺

大概貫目代銀ハも藍の中上に類せり

拜地手引草

一番 段畝歩之事並竿之寸尺

一田畠六尺五寸四方を一步と言三拾歩を一畝三百歩を一反と言竿は六尺五寸貳間竿を用檢法成來也

二番 矩之事

一上々田畠上同上下同中上同中同中下同下上同下同下々同下々の下同

右十矩を以田畠之善惡を定矩並高を付事は給人不任心因而高畧の請は給人心得次第也

三番 請定升名目之事

一高拾石

請夏秋納升五つ成

此物成五石

延米壹石

元延合六石

内麥六石

京升

但し高に六斗懸

(名東 藤辰郎氏所藏)

此米貳石

但し三つ折にして繼

殘而四石

請は納升に而定候也給知には造に京升請も有納升は京升にして貳割之延米御藏は五斗貳升三合口を打是を新御藏に而納升と云給知には一向無き事也

次本は御藏給知とも夫米と云而石に六升宛外に添

四番 麥懸御作法外麥並掛物之事

一麥懸は高に京升而懸其麥を三つ折にして拾貳に割納升に直し請之内を指繼但外麥成拾麥と云有是は格別也尤麥に不限品々有請之繼を割替物と云年貢都は年々御藏所か出割替を以米に直成捨に其沙汰無麥懸減時は秋米増也引捨遣時は麥請程請下也

一拜知麥懸無之村家頼等差遣候砌見爲せ候處島作多有之麥作仕居申候は、少々宛麥年貢懸候而も不苦御成來之由但御檢見之内相頼御用席に及了箇に吳候様相頼下方可然様取下手

右御藏奉行に承り如此記す

五番 桑綿田銀夫銀之事

一桑綿は懸物と云にあらす綿は百目代拾三匁米は五拾目として米之不足を繼もの也夫銀田銀同斷

也夫銀之義給知に限有之品に而給人用事に付時々屋敷へ罷出を相厭ひ百姓一軒より銀子何程指出可申と相定候根元之趣に候然るに右百姓田地賣拂夫銀難指出者有之訴訟申出向後右田地に夫銀相加り候様相成候依而田銀と相唱候得とも古き唱之夫銀共申相混唱來候別物に而は無之事

六番 田地斗代を知事

一何反何畝何拾何歩各何反何畝は其盡置何拾何歩を三つに而割是を以高を割は斗代に成也

七番 年貢以前横納法度之事

一年貢以前に横納法度之元指當り宛と不相見候得とも廿三ヶ條百姓借物之所に年貢以前百姓之借物押取義令停止と有是を元とするか其後寛文拾貳卯九月三日品々被仰出の中に御年貢以前百姓共横納仕義兼而御法度之事に候へども猥之由向後愈堅可相守候然上は貸人方より御年貢前に引取又は商人百姓密々に賣買仕儀曲事可被仰付候と有之候得は儘に御停止と相見候事

一御藏給知とも年貢以前百姓横納之義猥に有之自今可任先法候乍去質等に置借物仕者之義は御代官給人へ申斷實受候様麥米雜穀油物に至迄年貢以前百姓共賣申義御停止無據子細有之は御代官給人へ相斷候様年貢以前出買之義向後仕間敷旨御ヶ條御書附

寛文十年四月

一年貢横納仕者木津村に有之御譚談之上牢舍横納之義不存受取候は借主は受取米給人方へ相拂
件之借米相對次第年々借狀可相拂若横納之趣令存受取下者は横納借者可爲同罪旨相極り下書附
寛文十二年記録之内に有之年号不知

八番 餘宥合之事

一御藏所檢法に中古以前は貳割宛餘宥を付候得とも夫に而上々田下々田に而餘宥平等不成作法少
く迷惑仕旨に而正徳末年相窺左之通相極歌に
壹升到足れば餘宥を三合引足らぬは三合五勺引なり

是は秋合毛之事也麥は一統三合宛引也檢地之御作法に而給知には不入事ながら田地には兼而餘
宥に付有之事可知堂免並に見付之節刈跡などに入事も有之ゆへ記置也
此歌は壹歩之扱之事也

九番 麥請を知事

一辻麥を三つ折にして京升之米になる是を拾貳に而割は納升之米に也是を高に而割は麥請知
又云麥懸りを三つ折にして拾貳を以割は麥請知
又云麥懸りを三六に而割は麥請知

十番 立毛檢見之事

一夏秋とも腰張帖面を以立毛遂見分六尺五寸之筭を入る是を矩を入ると云小見付と云有是は件に
腰張を以地毎に何程之合と云を聞及違背時其地の矩を入る此方を申聞合毛無違背地は其通合毛
を定る夫に而は多之時は隙取候故一傍示に貳矩或は三矩入是に而増減を定闌廻しと云有其株程
闌を拵百筆有りても其株に置廻し場を定又見廻と云有地毎を能見而矩場を定る事所要也驗は合
毛付壹升と有處に而矩を入壹合乗有時は壹割と乗也五合と有之所に而は貳割と乗也餘は是に准
て知然は合毛之少き處に而入るが乗り之多き道理也されども至而少き合毛之處に而餘り強處は
百姓之痛不丈形右之仕合野に立不申内宿所に而矩場を撰置へし併是を先一通之事也下にも其段
腰張に工みも有事なれば一概には難定又徳穀と云事腰張有り是は矩に懸り不申其田地不殘蒔候
程も可有と云事寄せ扱と云も同斷也

右様之地はととと遂見分矩を懸候得は矩を入善無毛と云有田地も同斷之捌也
毛見之積

一稻一本に百七八拾粒を貳百貳三粒迄
一扱壹升之數四万粒程有實入に寄三万七八千程米一升數六万五千程

- 一藍生葉干し八分有之壹匁藍六拾貫程之物也
- 一煙草一步四本々五六本拾本迄一反に千貳百本々千七八百本迄上は貳拾本に而壹斤下は三拾本迄
- 一反に千八百本にして貳拾本に而壹斤之時は壹反に九拾斤壹斤壹匁にして九拾目
- 但し貳番三番迄販生葉拾匁干し壹匁貳分宛に成
- 一茄子一步に拾本宛一反に三千本也一本茄子十宛にして三万匁
- 一瓜一步に四匁宛にして一反に千貳百匁也
- 但し壹匁に大瓜十なるにして一反之瓜數一萬貳押平し十を三分にして一反三百六拾目九小瓜
- は一反に十四五なる
- 一木綿一反に三並壹並に拾五本一本に毛は十宛にして一ふさかけ目三分有時は拾五本之綿懸目四拾五匁しかれば一步に百三拾五匁一反に付貳百五拾斤程尤上には一ふさ四分より六七步迄段々
- 一芋一步一斗一反に參拾石但一步に三並又は貳步に五並一並に入くら一步に貳拾四五くら
- 一藟一反に百貫目一步に三百目餘
- 但五貫目がへにして一反に貳百目
- 一黍五石一步に一升七八合毛

- 一胡摩上一反に一石二斗 但し四合毛
- 一芋一反に付拾貫程百目に付一匁五分にして壹反百五拾目
- 一粟一反に付貳石程 但し七合毛々段々
- 一荏胡摩一石二斗程段々
- 一大豆一反に付三石 壹升毛々段々
- 一蕎麥一反五斗 五合毛同斷
- 一小豆貳石七升程 九合毛同斷
- 一大根一步に五拾本一反に一万五千本尤一步五十本より百本迄
- 一麥三石々四石迄 段々
- 一圓豆四石程 一升三四合毛同斷
- 一空豆五石程 一升六七合毛
- 一菜種一石二斗程 三四合毛
- 一粃何百石に而も四つ割は納升之米に成尤六步也
- 一合毛に七五を懸は一反納升米に成請を懸は斗代に成

一步別は元之合毛又歩別之合指引何合出目有時元之合毛を以出目合毛を割時何割何歩之増見也
一麥合毛見時實麥と三六に而割は諸口之麥知る也

反畝歩に直割は知也

算法之事

合毛之見積

一辻斗代に請を懸は納升之米に成是に拾貳を懸は京升なり是を六に而割は兩口之米に成是を倍して兩口之糶になる是を三つに而割は合毛知也

又云辻斗代請を懸七五を以割は合毛知也

又云辻斗代に請懸貳五を以割夫を三合に而割は合毛知也

七五之法發

一壹とす合毛とす是に三を懸は兩口之糶なる二つに割は壹五と成是則兩口京升之米也是に六懸は六歩之米九と成是を拾貳を以割は七五と成是則納升六歩之米也此七五を以納升之米を割は合毛知る也

一五之法發

一壹として兩口之糶とす是を米にして五と成是を六を懸れば三と成是は京升六歩之米也是を納升にして二五と成此二五を法にして納升之米を割は兩口之糶と知

四之法

一壹として納升之米とす是を京升にして壹貳と成是を六に而割は貳と成是則兩口之米也是を依にして四と成是則兩口之糶也此四を納升之米に懸れば兩口之糶知る也
右貳五を以割は四を懸る方早き故如此

三六之法發麥請を知る事

一壹として麥請とす是に三を懸れば納升之三と成是を京升之拾貳を懸れば三六と成是法發處也
又云三六之三は三つ折之三也六は京升納升とみ麥二つ割三に懸は六に成右之三六を以割麥請知る也

歩薙糶にて請を知事

一壹升として糶とす壹反三四歩懸は三石と成此六歩當り三石は三に六歩之六を懸れば壹石八斗有是を五合摺にして九斗に成是を斗代壹石五斗に而割は京升に而請六と成是を納升二割縮て納升の二つ請に成勿論拾貳に而割右九斗を拾貳に而割は七斗五升に成

右は口にも有之七五之法之發り也

右を高壹石五斗に割は納升五つ請成

十一番 毛見之節割替物割替外之品之事

一割替物は御藏處御定直段こ一所に極是を以取立指引極割替外之其作毛は何に而も其節之相場を以米直段にして銀にて取立

一青干麥割替物

一菜種割替物

一小麥割替物

一赤麥御藏に而は割替物

一黍 同

一稗割替物

一胡摩 同

一粟 同

一荏胡摩同

一大豆六助也小豆に而割

一小豆 同

一蕎麥割替物

一太米 同

一島米 同

一餅米割替無

一小黍

一たばこ伐取

一藍 同

一茄子 同

一瓜 同

一木綿 同

一藺 同

一芋 同

一苧 同

一圓豆 同類

一空豆 同

十二番 居内居屋敷春請之事

一毛見之節居内居屋敷春請と云如何様事に哉此内は家床居屋敷は困用之春請尤可也
此春請と云事春定たる請と云事も兼而之請と云に等し

十三番 刈跡上毛之事

一御見見之節諸立毛刈跡之義其處之上毛に雖出來刈取申趣承届吟味之上刈取候料無之にかゝるは春請に可仕候但不埒成趣に候はゞ勿論上毛に可仕候

右者元祿七甲戌二月九日主計殿被仰出也

此上毛と云事御檢見衆に問答曰元來拔見付は法度也萬一誤而苧と云へとも工み有道理に落依之春請之内に而麥請引残り秋請に口に有之御給地之節之余宿合を加へ此六歩も苧取候過怠也春請に餘宿合を加候得とも其土地最上之合毛なれば上毛と云と答

其後上毛と云事聞而

辻麥を三六に而割納升之米に成是を辻高に而割は反請何つと知元請之内に而麥請引残り秋請と知其村之上田何反何畝は其儘置何拾何歩を三に而割是を以高を割は斗代何程と知

右斗代に秋請を懸又四を懸は納升之糶成夫を壹反三四歩に割は上合毛何程知と語

右算法を聞難心得事第一上田以下田地取時は過意懸に似たれども上々田之者取時は春請に而濟第二には根元十矩之分つ物他之合毛を付事如何下に田之者に上に田之合毛付候而は年貢上納も難調第三には過意平等ならず第四には給知は聞合事も難成其れにも障品有旁難心得御書附に其處に上毛と有之故所と云字に泥み而之事に而は無之哉其所と云は其土地の上毛と云事ならず貳口に有之余宥合之行に随分明白にして過意も平等也是を實事と可知歟さすれば後に法は記に不及事ながら時至り行候時左にはあらずと云人われれば疑を生る事故指支之品を揚て爰に記されども能道も有哉猶廣尋る事

十四番 島檢見願付節之事

一 島見分は六月を限り願出筈無左延引仕候而は不能許容島物品に有荒増割替所に記猶右之外にも有べし檢法之處に御檢見衆之積も有

十五番 抜見付之事見付願之事

一 凶年之節願有之といへども一傍示之内抜に而は檢見不被仰付候並依願御檢見之村懸米上納仕義願出候得は本米を以新御藏へ相渡置候

一 竿は六尺五寸に被仰付候

一 御檢見不願出候村々之義請免は勿論惣而立毛之義に付願許容不仕候然其所柄痛候に付痛之品に候而は了簡仕義も御座候

右三ヶ條古來成來に而右之通に御座候御藏處舊記に有之事

十六番 田地裏判之始之事

一 田地賣買往古は賣人買人勝手次第墨付を取替相濟候得共寛文中左之被仰出已來國裏判取其己來之証文裏判無とは不証文に相定反古也裏判於遣は水帳之名負か當作人迄之系圖を篤相改反畝高等相糺候上裏判可遣年貢不足之外に賣を不申右証文工み有之時は年を經切繼候事坏も有之候條右様之事に心を付候段第一也証文反畝負と買人之名之上に割印杯するも有是等可也

被 仰付裏判左之通

覺

一田島賣買並質入之儀自今以後御代官給人へ相斷吟味之上年貢地等所並田地に付買主方より上納仕筈尤庄屋五人組加判下代裏判証文可相極之給知之義は庄屋五人組加判雖無之其下代裏判を以証文可相極に付年貢上納之外互之爲勝手田地賣買質入之義何時も御代官給人之下知を請右之通証文可相極事

寛文十二年子の九月三日

右御書附貸借利足田地加地子質物利足糶種雜穀利足一處に有之候得とも爰に略

一金銀は利足年中貳割月歩は壹歩六厘

一米麥並糶種雜穀とも利年三割

一質物利壹ヶ月壹歩半

一田地加地子は請之年貢米三割

十七番 同添書賣裏判之事

一御國中田島賣買並質物等之義御代官給人へ申斷吟味之上下代裏判を以可相極旨寛文拾二年被仰出候然處右之段令沙汰節一度下代遂裏判候得とも其後は右田島義度賣買質入仕候而も相對に而賣買自分之添書を以元來下代裏判有之書付指遣事濟を申旨此段爲行違事に候依之來る七月十四

日より向後田島義度賣買質入に仕候而も先年被爲仰出通令沙汰旨急度可被申付候 已上

貞享二丑年六月廿三日

長谷川主計

岩田小八兵衛殿

郷司孫右衛門殿

岩田彦之丞殿

右之通被仰出候條何ヶ度賣買質入に仕候とも添書物とも庄屋五人組加判下代裏判を以可極之但給知之義は庄屋五人組加判無之といへども下代裏判可相極候此旨面々組村不際何者堅相守候様可申渡候 以上

丑九月御國中觸

郡奉行 三人

十八番 永代賣御法度並質地年貢之事

一質地取候者年貢不出之質地に遺置無田地之者々年貢地役相勤候者有之由相聞不届之至に候堅く其停止候事

一田島永代賣此以前被仰出通彌以制禁之事右之通堅可相守之若爲違背におゐては可行罪者也

貞享四卯年四月 日

十九番 讓地裏判始並古證文裏判之事

一在之耕作人田地相讓之義兄弟親類他人に至る迄御代官給人相達重々致詮義候上無據子細於有之は承届庄屋五人組加判を以證文相究下代裏判可申附候

一右之通被仰付候上は前廉無裏判相讓候田地之義は後來爲無紛下代裏判可申附置也

右之通向後被仰付候條得其意郷中堅可被申付候 以上

元祿十四己年十一月十三日

加 島 和 泉

郡 御 奉 行 三 人

御 代 官 共

右御書附暇人郡處見印始と一處に被仰出尤暇證文見印之事と爰に略す惣而讓地は代米銀を付候而は不遂間尤謝禮も同斷也右様に有之候而は永代賣に似通故也或は遠作又は由緒之申立を以讓せ申事也

尤其余無據子細を以讓せ申事也

貳拾番 寺院之讓地寄附地之事

一只今迄元來寺院に無之百姓所持之地所寺院へ寄附之義又は讓地等にいたし候ても有之右之地處

を佗之寺院或は他之寺々塔頭等之讓渡右場處へ引寺致し又は本寺程離末願主勝手宗旨に仕替引寺いたし或は當時退轉之寺号斗水帳等に有之を取立引寺号いたし候義並墓處詰り添地寄附境内に圍込之義右様之願自今可爲無用百姓は勿論仮令領主地頭たりとも田畠狹に寺院に寄附致候義容易には難成事也

寶曆十二年午二月 公義御觸也

二拾一番 兄弟配分之地之事

一百姓處持之田地配分仕義親は格別兄弟之代至り候而は不相調讓證文を以配分仕筈御代官に而も其元は不相知候得とも元祿拾四年讓地之被仰付に兄弟親類他人に至迄代官給人へ相達證文を以可相究に有之候へは兄弟は不相調物之先相見候然處郡處に而は配分不相調とは相心得ざる事子細兄より弟への分配地書拔帳を以子孫出入申立候節は村郡處遂吟味候事也親相果伴共幼少之節追而成長之上分地有之之義故背物とは相立不申吟味之運は右之通也御代官此段致相達居申事但し御代官が指出證文兄が遂配分候而は渡世難成と申文義引合如何之事可考

二拾二番 散田名田に指遣節心得之事

一散田有之名田にお遣は随分相糺下札證文可遣併し右札書幾年も此方に貯置煩有之候得は指上地

以上証文死絶は處役人本家並取立人申付散田帳取り右帳面に奥書を加へ遣候得は貯置煩無し尤帳面等之紙拔替等之不調相様に小口印其外心を付奥書も随分能相調人割書加へ可遣候下札一通之文段左に記

但銀付散田と唱是は賣置田地元地主死絶へたるを言名田に望人等有之遺初買主方は有來る通請返事也

覺

一アサナカ子何反何畝名負何右衛門是は水帖也
名負也

高何石何斗何升

右者我等拜知何郡何村名負何右衛門此間散田に成候
迄の系圖を記令作候處何兵衛義何として散田に罷成候然る處其方名田に相望冥加米指出可申旨紙面を以申出段聞届冥加米指出相濟候に付名田に指遣候條自今以後年貢地役等之義我等拜知並全令相勤め仍如件

年 号 月 日 名 印 勿 論 直 印

何 郡 何 村

何 右 衛 門 方 へ

二拾三番 行き名散田之事

一いづれ名申達候定步行扣名田賣申節各御手元に証文裏判願出候得は彼是御詮義容易に御聞届無之由且又步行共伴多致處持百姓其外へ養子に遣度旨願出候節面々方へ步行役義に付故障無之哉之旨御相談有之其趣に應し暇之義御了簡有之義と存候然所步行名散田に相成候節は御相談有之御手元も相見又は無其義候御手崎も有之區々相見へ步行株所絶仕候而は其村惣百姓之迷惑に相成義御座候に付自今以後は右散田御片付之義郡處へ御相談有之上御調被成度旨御當職方へ相調候所御聞届被成候條此段面々方へ可申達旨被仰聞向後は御中間御一統に右之趣區々無之地居之義御相談被仰聞候様に存候 已上

九月十四日

| | |
|-----------|----------|
| 江口 彌兵衛様 | 江口 甚之丞様 |
| 武藤 伴右衛門様 | 下 條 成 助様 |
| 齋 藤 權 治様 | 生田 弁左衛門様 |
| 三 矢 安右衛門様 | 津田 勘兵衛様 |
| 佐坂 新右衛門様 | 團 平 助様 |

| | |
|----------|--------|
| 村井勘兵衛様 | 惠藤理之丞様 |
| 長谷川惣右衛門様 | 津田順次様 |
| 成瀬源之丞様 | 津田字平様 |

右は御代官月番箱に有之年号不見

貳拾四番 田地五年切始之事

一田地賣買五年切に沙汰可仕候寛永拾九年極月廿三日酒部内膳以被仰出候得とも万治貳年二月廿七日内膳を以自今以後不及相守旨被仰出候其節を之成來候哉五年切之元御代官にも不相見候在古年數延に相成正證文に御立被成候旨山田貢殿被仰聞候旨御代官控に有之事

二拾五番 證文散田之事

一私御代官所板野郡大寺村百姓久左衛門方より同村新次郎方へ享保五年十月に五年切證文を以賣置候田地同村六左衛門小家爲左衛門後家手作仕居申に付久左衛門伴龍見方去冬受返之義申斷候所指支迷惑仕旨龍見方申出に付六左衛門並爲左衛門手前證義仕候所右新次郎義は六左衛門弟に而幼少之節爲左衛門方合宿仕居申所他借等引負先年欠落仕候右田地も合宿之節相調候義故爲左衛門後家裁判仕居申候得共根元源次郎當の買地其上證文紛失仕義故請返指支候趣申出候

買人新次郎欠落仕候へは證文散田と奉存候然上は地元を地代被召上右田地迄に遣候御筋と奉存候然共地代之義証文紛失健成証據相見へ不申候得は證義之上彼村類地に相應し冥加銀被召上田地龍見可被下哉彼是之趣奉伺候 已上

元文二年己の二月

坪 田 庄 兵 衛

右之通二月十三日お倉處出雲殿登殿へ相伺候處冥加銀被召上右散田地は地元へ可召遣旨仰聞に付先年賣遣候代銀之負數證義之上不相應に無之故銀札三百目召上田地は返被下旨龍見へ申付候也

右者御代官月番箱に有之事

二拾六番 裏判無し証文之事

一御代官所田地賣買實入証文寛文拾二年手代裏判被仰付同添手物にて貞享貳年被仰付讓り証文には元祿十四年裏判被仰付候前裏判無相讓り候田地之義も後來爲無紛裏判申付候様其節被仰付候得とも寛文拾貳年前裏判無之節賣候田地証文追て裏判仕らせ候様之被仰付無御座候得とも裏判無証文御立被遊候義に而も御座候哉然共讓証文裏判無追而裏判可仕旨被仰付御座候得とも右証文難相撥御座候此節右様之田地証文指出候に付證義仕候得とも指當り右様例無御座に付奉伺

候 巳上

享保十八年丑の三月

坪田庄兵衛

右之通山田貢殿相伺候處寛文拾貳年田地賣質証文に自今以後手代裏判被仰付御文義其後貞享貳年元祿十四年地証文裏判之義に付被仰渡候御書附にも寛文拾貳年已前無裏判証文之御汰沙無之上は右証文裏判無に而御立に成る旨同三月廿八日於倉處に貢殿被仰渡御留書も指出申候に付記置

右は御代官月番箱に有之事

貳拾七番 敷地化粧田之事

一郡處御代官所同斷不相調事

貳拾八番 百姓子弟暇之事

一百姓子弟暇願出候得は養方之御代官給人郡處其外御扶持人は其頭右願書遣別紙之通願出候條本人御暇之上被仰聞可被下と申遣也給知取遣は御代官申談左之通此心得を以何をも鍛申答願之通何右衛門義御代官處暇指遣におゐては何兵衛家督相續之養子に御申付可成候哉然は何兵衛男子無之家督相續仕らせ候段相違無之家督何程控所申哉本人御暇之上右書付に村役人奥書

御取御指越可被成候

拜知付之分は右之通申遣答

譜代家來は右彼是御鍛御糺之上可被仰聞候

右は享保拾七子歲六月申談有之事

右鍛書之趣意暇遣事也勿論無家督へは暇不申諸職人は職を家督として暇遣也

一通之暇證文左之通

覺

何那何邑我等拜知^百人^姓何右衛門義男子之伴數多有之家督少く配分可仕様無之渡世迷或仕候由然處何男之伴何助と申者何那何村御藏百姓何兵衛男子之伴無之家督相續之養子に仕度旨に而相望申に付指遣度旨何右衛門願紙面に其方共奥書を以村中故障無之旨申出に付鍛之義右村御代官何野何右衛門方へ申達候處何兵衛義家督何程相控候得とも男子之伴無之に付暇承届候得は家督相續之養子に仕段相違無之旨申來に付何右衛門願之通何助に暇遣候處如件

年号 月 日

名 印 尤 直 印

何那何村庄屋 何右衛門方へ

同村五人與共へ

一一〇

以下略

參考目錄

| | | |
|-------------|-----|--------|
| 拜地愈上り地檢地帳 | 德島市 | 淺野八呂氏 |
| 御檢法式 | 全 | 清瀬正衛氏 |
| 佐古村藏本村分間繪圖控 | 全 | 岡崎三藏氏 |
| 德島藩地圖 | 全 | 郡峰吉氏 |
| 御山下島分繪圖 | 全 | 侯爵蜂須賀家 |
| 中村新御檢地帳 | 名東郡 | 國府町役場 |
| 延命村敷開御檢地帳 | 全 | 全 |
| 觀音寺右全 | 全 | 全 |
| 延命村新開御檢地帳 | 全 | 全 |
| 阿淡兩國村附舊記 | 全 | 美馬與七郎氏 |

| | | |
|--------------|-----|--------|
| 早淵村繪圖面 | 全 | 後藤保郎氏 |
| 早淵村反高帳 | 全 | 後藤種太郎氏 |
| 全村新開御檢地帳 | 全 | 全 |
| 檢法錄 | 全 | 全 |
| 寛文六年中村名御檢地帳 | 全 | 阿部増太郎氏 |
| 享保元年日開村御拜地水帳 | 全 | 榎本儀市郎氏 |
| 全十二年西尾外記上知水帳 | 全 | 全 |
| 全十六年御拜地水帳 | 全 | 全 |
| 延享四年御藏御方地引帳 | 全 | 全 |
| 阿州德島總圖 | 勝浦郡 | 豊田明貫氏 |
| 飯谷村御檢地帳 | 全 | 竹内増太郎氏 |
| 峰須賀藩時代德島市分割 | 全 | 柳本俊藏氏 |
| 明細圖内大岡の部 | 全 | 全 |
| 全寺島の部 | 全 | 全 |
| 全出來島の部 | 全 | 全 |

田畑株歛下被仰付控
 享保檢地帳
 全御加帳
 全書援帳
 享和檢地帳
 全田畑川成引高書援帳
 文化伴孫作様御拜知水帳
 全御藏田畑相調帳
 全御藏分地調帳
 全天羽金次郎様御上知行帳
 全齋藤伊平太様御拜知調帳
 全畠田成新開藏開田地調帳
 御檢地帳の内御藏分
 生駒源次様御水帳

全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全

全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全

柏木原人様御拜知水帳
 後藤嘉市郎様右全
 全人田畑證文調帳
 御拜知調帳
 文化御改人別控田畑帳
 元祿大盃已知藏様御拜知水帳
 寶永坂部帶刀様御拜知水帳
 全坂部委女様御拜知反高指出帳
 全御檢地帳
 寬永大盃豊吉様水帳
 寬延傍示分帳
 延享御檢地帳
 全御檢地名寄帳
 文政御檢地帳

全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全

全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全

| | | |
|--------------|---|---|
| 欽高名負相調差出帳 | 全 | 全 |
| 御國繪圖就御用反高差上帳 | 全 | 全 |
| 山島出入濟口書物 | 全 | 全 |
| 隱田島制道御觸寫 | 全 | 全 |
| 散田記錄一卷 | 全 | 全 |
| 出目田島書出帳 | 全 | 全 |
| 洪水荒地取調達書 | 全 | 全 |
| 吉野村地券願帳寫 | 海 | 池 |
| 寛文八年奥浦檢地帳 | 全 | 全 |
| 全年全新開檢地帳 | 全 | 全 |
| 全十年右全 | 全 | 全 |
| 延寶八年右全 | 全 | 全 |
| 天和三年右全 | 全 | 全 |
| 元祿三年右全 | 全 | 全 |

郡

池内德藏氏
新奥村役場

| | | |
|----------------|---|---|
| 全九年右全 | 全 | 全 |
| 寶永四年右全 | 全 | 全 |
| 正德二年右全 | 全 | 全 |
| 正德五年右全 | 全 | 全 |
| 享保四年右全 | 全 | 全 |
| 全十年右全 | 全 | 全 |
| 全十八年右全 | 全 | 全 |
| 元文五年全村新開檢地帳 | 全 | 全 |
| 寛政元年右全 | 全 | 全 |
| 天保二年奥村名負林檢地帳 | 全 | 全 |
| 明治四年全下札帳 | 全 | 全 |
| 全五年全引合帳 | 全 | 全 |
| 北河内村明和年間檢地帳 | 全 | 全 |
| 明治四年西河内村名負林下札帳 | 全 | 全 |

赤河内村役場

| | | |
|------------|---|--------|
| 開墾植付願上書 | 全 | 三木彦一氏 |
| 寛永元年山城谷檢地帳 | 全 | 岡田隆憲氏 |
| 明曆四年井内谷檢地帳 | 全 | 井内谷村役場 |
| 延寶三年右全 | 全 | 坂本要藏氏 |
| 阿陽記 | 全 | |

治水

大原堤覺書

大原堤之覺

一廻何申付候間水三間五間計のけ尤候事

但所によるへし

一高下は百姓等に相尋大方の水をは相かゝる候様に尤に候すくれたる大水かく別に候はへね置之儀高さにおふし可被申付候事

一土之取所は堤の内尤候とては堤のよわみたるへく候事

卯月十八日

宗

一(花押)

與一郎殿
 七右衛門殿
 忠左衛門殿

(侯爵峰須賀家所藏 御代々様御書寫中抄出)

堤川除修繕並杭木笹竹伐取御觸寫

(名西郡林者吾氏所藏 諸法度提書中抄出)